

八丈町町制施行 70 周年記念

令和 6 年度

危機的な状況にある

言語・方言サミット

(八丈島大会)

資料集

令和 6 年 12 月 7 日 (土) 10:00~19:30

12 月 8 日 (日) 10:00~16:00

東京都八丈島八丈町 八丈町多目的ホール “おじゃれ”

主催・共催 文化庁、東京都教育委員会、八丈町、八丈町教育委員会、
大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所、
国立大学法人琉球大学



目 次

趣旨	1 ページ
日程及び登壇予定者	2 ページ
“Atlas of the World’ s Languages in Danger” (UNESCO2009) で消滅の危機にあるとされた日本国内の言語及び東日本大震災の 被災地の方言	5 ページ
危機的な状況にある言語・方言に関する文化庁の取組の展開	6 ページ
消滅の危機にある言語・方言に関する施策の枠組み	7 ページ
危機の度合いの判定基準	9 ページ
危機的な状況にある言語・方言サミット（八丈島大会）チラシ	13 ページ
【12月7日（土）】	
オープニングアトラクション（八丈太鼓、榎立踊り）	15 ページ
基調講演「八丈方言の過去・現在・未来」	19 ページ
危機的な状況にある言語・方言による表現披露1（劇団かぶつ、加茂川会）	25 ページ
危機的な状況にある言語・方言の聞き比べ	31 ページ
危機的な状況にある言語・方言による表現披露2 「ちがっても同じ～指小辞の話」	53 ページ
ブースアピール～ブース発表	57 ページ
情報交換のための研究協議会	63 ページ

【12月8日（日）】

危機方言の現況報告 67ページ

アイヌ語の現況報告（昨年度収録動画） 81ページ

危機的な状況にある言語・方言による表現披露3（アイヌ語） 85ページ

八丈方言大会 89ページ

大会宣言 93ページ

【趣旨】

我が国における言語・方言のうち、ユネスコが平成 21 年に発行した“Atlas of the World’s Languages in Danger”で消滅の危機にあるとした 8 言語・方言及び東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の状況改善につなげるために、消滅の危機にある言語・方言に関する委託調査結果の成果や消滅の危機にある言語・方言を抱える各地域の取組状況等について広く知っていただき、文化の多様性を支える言葉の役割や価値について共に考える機会とする。

【全体司会】

奥山 恵美 茂手木 晴美

【 日程 及び 登壇予定者 】

(敬称略)

12月7日(土)

- 10:00 オープニングアトラクション 八丈太鼓、檜立踊り、方言替え歌
- 10:30 開会式
主催者・共催者挨拶 文化庁、東京都教育庁、八丈町
- 10:45 基調講演「八丈方言の過去・現在・未来」
千葉大学名誉教授 金田 章宏
- 12:00 休憩
- 13:00 危機的な状況にある言語・方言による表現披露1
劇団かぶつ
加茂川会
- 13:55 休憩
- 14:00 危機的な状況にある言語・方言の聞き比べ
南部(八戸)：榎谷伸夫、新島(本村)：前田好真江、八丈(三根)：大澤幸一、
八丈(大賀郷)：奥山妙子 八丈(檜立)：田村明美、八丈(中之郷)：秋田信子、
八丈(末吉)：沖山恵子、奄美(宇検)：鈴木るり子、喜界：吉田輝倫、
沖永良部：田中美保子、与論：菊秀史、国頭(今帰仁村謝名)：島袋幸子、
沖繩(那覇)：高良ひとみ、宮古(平良)：下地トミ子、八重山(石垣)：東大濱剛、
与那国：眞地保考、アイヌ(沙流)：関根健司
- 14:50 休憩
- 15:00 危機的な状況にある言語・方言による表現披露2
「ちがっても、同じ 指小辞の話」
榎谷伸夫、山入端信之、山崎静子、浅沼千枝子、三樹陽介、茂手木清
- 15:30 ブースアピール ～ ブース発表
- 17:15 休憩
- 17:30 情報交換のための研究協議会
- 19:30 終了

12月8日（日）

10:00 開会

10:05 危機方言の現況報告 駒澤大学 三樹 陽介
八丈町の取組紹介 八丈町教育委員会 林 薫

10:45 アイヌ語の現況報告（収録動画） 北海道博物館 遠藤 志保

11:15 危機的な状況にある言語・方言による表現披露3（アイヌ語）
豊川 容子、川上 将史、川上 朔來、川上 亜万夢

12:00 休憩

13:00 八丈方言大会

15:00 休憩

15:15 大会宣言・閉会式 石野田奈津代、三原学園有志
石垣市教育委員会、八丈町教育委員会

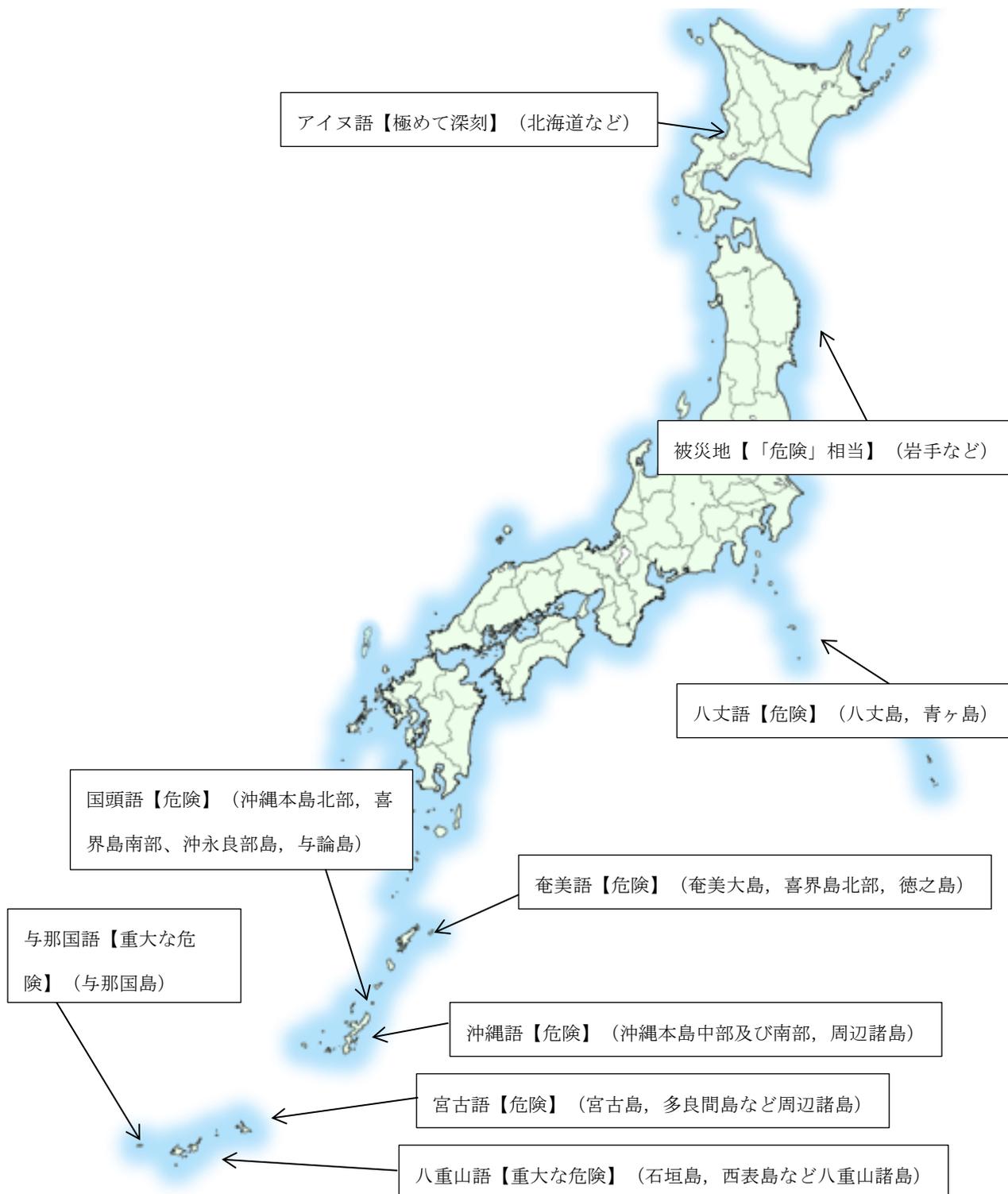
16:00 終了

アンケートへの御協力をお願いいたします。

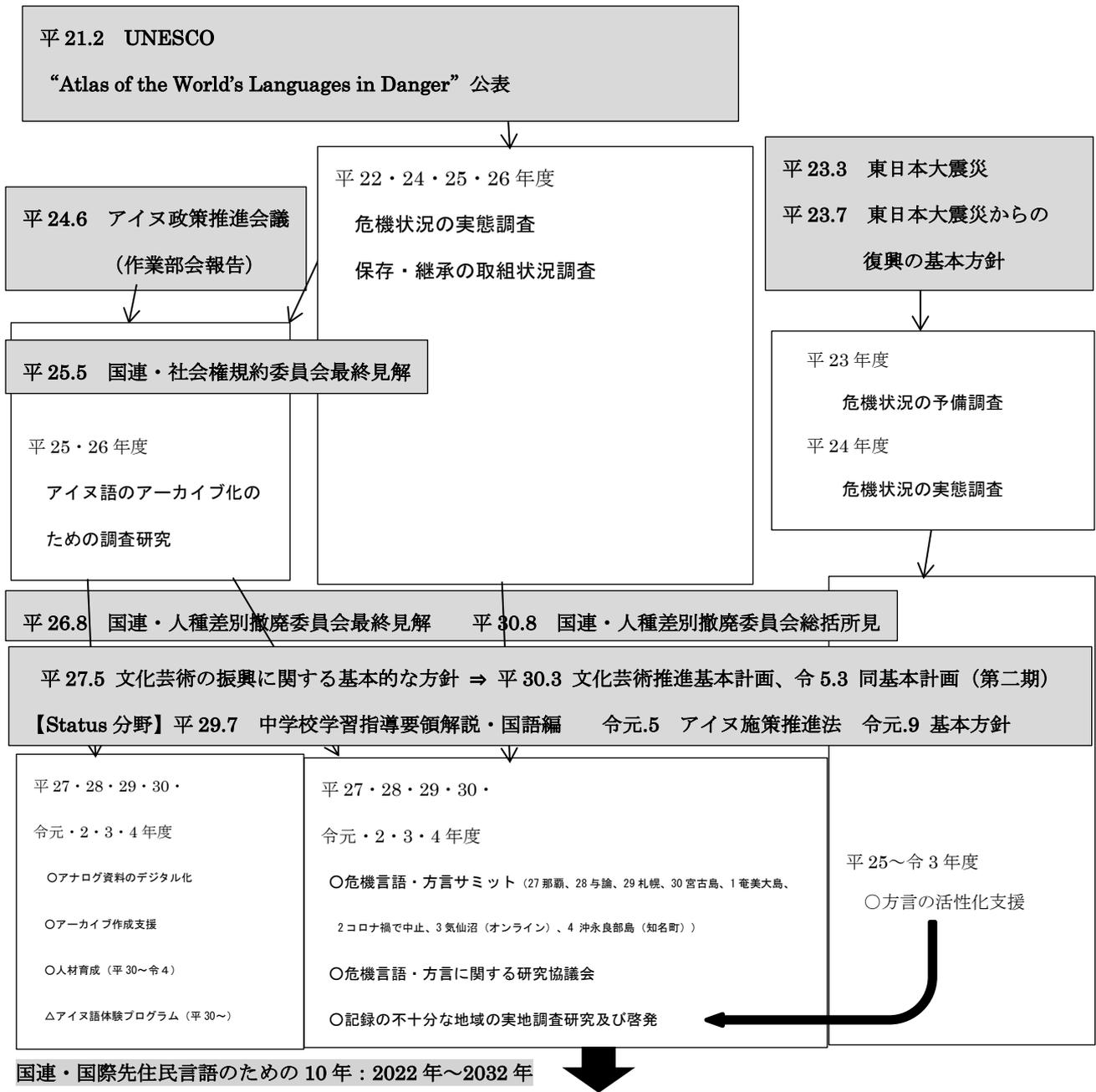
“Atlas of the World’s Languages in Danger” (UNESCO2009)

で消滅の危機にあるとされた日本国内の言語 及び

東日本大震災の被災地の方言



危機的な状況にある言語・方言に関する文化庁の取組の展開



令 6 年度

【Corpus 分野】 ○アイヌ語アナログ資料のデジタル化 ○アイヌ語アーカイブ作成支援
○消滅の危機にある方言の記録作成及び啓発事業

【Prestige 分野】 ○アイヌ語体験プログラム ○危機的な状況にある言語・方言サミット（八丈島大会）
○消滅の危機にある方言の記録作成及び啓発事業 ○危機的な言語・方言に関する研究協議会

消滅の危機にある言語・方言に関する施策の枠組み

消滅危機言語の継承のためには、3分野にわたる取組が必要であると危機言語研究者から指摘されている。この3分野に対応した取組をデザインする必要がある。

◆STATUS（公的位置付け）……法律等による公的な位置付け

方言：東日本大震災からの復興の基本方針→中学校学習指導要領解説・国語編
アイヌ語：アイヌ施策振興法、アイヌ施策の総合的かつ効果的な推進を図るための基本方針

⇒ 既に公的な位置付けが示されている状態にある。

◆CORPUS（言語資源）……辞書、文法書、例文集、教材など

方言もアイヌ語も地域差が大きい

→ 十分な言語資源の整っていない地域の調査研究が必要

⇒ 消滅の危機にある方言の記録作成及び啓発事業
アイヌ語アーカイブ関係事業

◆PRESTIGE（威信、社会的イメージ）……社会的に抱かれているイメージ

危機言語・方言の価値と危機的な状況を伝えていく必要

⇒ 危機的な状況にある言語・方言サミット
消滅の危機にある方言の記録作成及び啓発事業
危機言語・方言に関する研究協議会



危機の度合いの判定基準

いろいろな研究者が判定基準を提唱してきたが、主として現在は、ユネスコ(消滅危機言語に関する専門家グループ)が2003年(平成15年)3月に発表した「言語の体力測定」(9項目・各6段階)に基づいて総合的に消滅の危機度は判定されている。

(1) その言語がどの程度 次の世代に伝承されているか。

(2) 母語話者数

(3) コミュニティー全体に占める話者の割合

(4) どのような場面でその言語が使用されているのか

(5) 伝統的な場面以外で新たにその言語が使用されている場面がどの程度あるか

(6) 教育に利用され得る言語資料がどの程度あるか

(7) 国の言語政策(明示的、非明示的態度を問わず)

(8) コミュニティー内でのその言語に対する態度

(9) 言語記述の質と量

それぞれの項目はどのような目安で判定されるのか？

(1) その言語がどの程度 次の世代に伝承されているか

- 5点 子供を含む全ての世代で使用されている。
- 4点 全ての子供たちが一定の限られた場面で使用している。
- 3点 親の世代以上で使用されており、子供たちは使用していない。
- 2点 祖父母の世代以上で使用されており、親、子供の世代は使用していない。
- 1点 曾祖父母以上の世代で使用されており、ほとんどの話者は使用していない。
- 0点 言語を使用する者はいない。

(2) 母語話者数

※ 一般に、どの年代以上が使用できるかを基に地域の人口から推計する。

(3) コミュニティ全体に占める話者の割合

- 5点 全員が使用している。
- 4点 ほぼ全員が使用している。
- 3点 使用している者が大半を占める。
- 2点 使用している者は少数派である。
- 1点 使用する者はほとんどいない。
- 0点 誰も使用していない。

(4) どのような場面でその言語が使用されているか

- 5点 全ての場面で、全ての目的のために使用されている。
- 4点 二つ以上の言語が、全ての場面で、全ての目的のために使用されている。
- 3点 家庭の場面では使用されているが、支配的言語が家庭でも使われ始めている。
- 2点 限られた場面、幾つかの目的のために使用されている。
- 1点 ごく限られた場面で使用されるだけで、機能的に使用されることはほとんどない。
- 0点 どんな場面のどんな目的のためにも使用されていない。

(5) 伝統的な場面以外で新たにその言語が使用されている場面がどの程度あるか

- 5点 新たに生活に加わったどんな場面でも使用されている(テレビ放送など)。
- 4点 新たに生活に加わったほとんどの場面で使用されている。
- 3点 新たに生活に加わった一定の場面で使用されている。
- 2点 新たに生活に加わった幾つかの場面で使用されている。
- 1点 新たに生活に加わった場面ではほとんど使用されていない。
- 0点 新たに生活に加わった場面では使用されていない。

(6) 教育に使用され得る言語資料がどの程度あるか

- 5点 確立された書記法と伝統的な文法記述、辞書、文字資料、文学が存在する。行政、教育で使われる書き言葉がある。
- 4点 文字資料が存在し、子供たちは学校で言語使用を学んでいる。行政の書き言葉では言語は使用されていない。
- 3点 文字資料が存在し、子供たちは学校でそれに触れる機会がある。言語使用は奨励されてはいない。
- 2点 文字資料は存在するが、コミュニティ内の限られた者にしか利用されていない。ある者にとって文字使用は象徴的な意味を持つことがある。言語使用は学校教育には取り入れられていない。
- 1点 書記法が存在することは知られている。それで書かれた文字資料が幾つかある。
- 0点 書記法は存在しない。

(7) 国の言語政策(明示的、非明示的態度を問わず)

- 5点 国内の全ての言語が保護されている。
- 4点 言語は保護されているが、主に家庭など限られた場面で使用され、公的には使用されない。
- 3点 言語に関する保護政策は施行されていない。公的場面では支配的言語が使用される。
- 2点 政府は支配的言語の使用を勧めている。言語に関する保護政策は施行されていない。
- 1点 支配的言語のみが公的に使用され、言語は保護や認知すらされていない。
- 0点 言語の使用が禁止されている。

(8) コミュニティ内でのその言語に対する態度

- 5点 全員が言語を大切にし、使用が奨励されることを望んでいる。
- 4点 ほとんどの者が、言語が次世代にも使われることを支持している。
- 3点 多くの者が、言語が次世代にも使われることを支持している。その他の者は、無関心であるか、言語が使用されなくなることを望んでいる。
- 2点 言語が次世代にも使われることを支持している者もいる。その他の者は、無関心であるか、言語が使用されなくなることを望んでいる。
- 1点 言語が次世代にも使われることを支持している者は少数しかいない。その他の者は、無関心であるか、言語が使用されなくなることを望んでいる。
- 0点 言語が使用されなくなることに関心のある者はいない。全ての者が支配的言語の使用を望んでいる。

(9) 言語記述の量と質

5点 分かりやすい文法記述と文字資料が多く存在し、言語資料は常に生産されている。高い質の録音、録画資料が存在する。

4点 良い文法記述が一つあるほかにも、文法資料、辞書、文字資料、文学、それに定期的に更新される日常言語使用の資料が存在する。一定の質の録音、録画資料が存在する。

3点 一定の文法資料、辞書、文字資料が存在し得るが、日常言語使用の資料はない。録音、録画資料は、質の高いものも低いものもあり、文字化されているものやされていないものもある。

2点 限られた言語学的目的に利用可能な簡単な文法記述、語彙表、文字資料が存在するが、総括的なものはない。録音、録画資料は、質の高いものも低いものもあり、文字化されているものやされていないものもある。

1点 簡単な文法記述、短い語彙集、断片的な文字資料が幾つか存在するのみ。録音、録画資料は存在しないか、利用不可能、若しくは全く文字化されていない。

0点 言語記述は存在しない。

平成22年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究事業 報告書」
(平成23年2月 国立国語研究所)による

※ これらの判定基準を日本においては当てはめると? ⇒ 次のシートへ

項目	アイヌ語	八丈	奄美 (喜界島)	国頭 (名護 幸喜)	沖縄 (久米 島)	宮古 (多良 間島)	八重 山(宮 良)	与那 国	鹿児島 甌島	岩手三 陸
(1)伝承	1~3	2~3	3	2	2~3	3	2	3	3	2~3
(2)話者 数	ごく少 数	1700	5924	83	1330	2133	数百	393	3210	—
(3)割合	1~3	2	3	2	2	3	2	2	2	3
(4)使用 場面	2	2~3	2~3	2~3	2~3	2~3	2~3	2~3	2~3	2~3
(5)新場 面	1	2	1	0	2	0	1	0	0	1~2
(6)言語 資料	2	2~3	2	1	1~2	1~2	1	1	2	2~3
(7)言語 政策	3	3~4	2~3	1~3	3	3	2	3	2	2~3
(8)態度	2~3	3~4	2~3	4	4	2~3	2	2~3	1~3	2~3
(9)言語 記述	2~4	3~4	2	3~4	2~3	2	2	2	1	2
平均	1.75 ~ 2.63	2.1~ 3.1	2.21 ~2.5	2.25	2.3~ 2.8	2~ 2.38	1.8	1.88 ~ 2.13	1.625 ~2	2.0~ 2.8
判定	極めて 深刻	危険	危険	危険	危険	危険	重大な 危機	重大な 危機	極めて 深刻?	危険?

平成22年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究」(国立国語研究所)

平成25年度文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言の実態に関する調査研究」(琉球大学)

平成24年度文化庁委託事業「東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究(岩手県)」(岩手大学)

趣 旨



日本には消滅の危機にある言語・方言がいくつもあります。アイヌ語、八丈方言、奄美方言、国頭方言、沖縄方言、宮古方言、八重山方言、与那国方言、そして、東日本大震災の被災地方言などです。

「危機的な状況にある言語・方言サミット」は、これらの言語・方言の状況や地域の取組事例の紹介、聞き比べや講演、協議などを通して、文化の多様性を支える言葉の役割や価値について共に考え、危機的な状況を改善するきっかけとしようとするものです。

12月7日 土

10:00 ~ 19:30

- 10:00 オープニングアトラクション
(八丈太鼓、榎立踊り)
- 10:30 開会式
- 10:45 基調講演
「八丈方言の過去・現在・未来」
金田章宏(千葉大学名誉教授)
- 12:00 休憩
- 13:00 危機言語・方言による表現披露1
劇団かぶつ(シニア劇団)
加茂川会
- 13:50 休憩
- 14:00 危機言語・方言の聞き比べ
アイヌ語(沙流)、南部(八戸)、
新島(新島)、八丈(榎立、三根、
大賀郷、中之郷、末吉)、
奄美(奄美大島、喜界島)、
国頭(沖永良部島、
与論島、沖縄本島北部)、
沖縄(沖縄本島中南部)、
宮古(宮古島)、八重山(石垣島)、
与那国(与那国島)
- 14:50 休憩
- 15:00 危機言語・方言による表現披露2
「ちがっても同じ~指小辞の話」
- 15:30 ブースアピール
- 15:45 ブース発表
- 17:15 休憩
- 17:30 情報交換のための研究協議会
- 19:30 終了(予定)

12月8日 日

10:00 ~ 16:00

- 10:00 開会
- 10:05 危機方言の現況報告
三樹陽介(駒澤大学文学部准教授)
林薫(八丈町教育委員会)
- 10:45 アイヌ語の現況報告<収録動画>
遠藤志保(北海道博物館)
- 11:15 危機言語・方言による表現披露3
豊川容子、川上将史
- 12:00 休憩
- 13:00 第3回八丈方言大会
- 15:00 休憩
- 15:15 大会宣言
三原学園関係者有志+特別ゲスト
- 15:30 閉会式
- 16:00 終了(予定)



基調講演講師

金田 章宏

八丈方言研究の第一人者
千葉大学名誉教授
国立国語研究所客員教授

<問合せ先>

八丈町教育委員会

TEL 04996-2-7071

文化庁国語課

TEL 03-5253-4111(内線2841)

Mail kokugo-shidofukyu@mex.go.jp

1日目

オープニングアトラクション

開会式



[八丈太鼓]八丈太鼓 六人会

古くから八丈島でたたかれている伝統芸能の和太鼓で、脚に横向きに乗せた太鼓を両面から二人で叩くというのが特徴です。

下打ちのリズムに乗せて、即興で上打ちが自由に太鼓を打つのが八丈太鼓の魅力であり、たたく人の個性によって、音色や速度が変わるのが見どころです。

八丈島では太鼓は娯楽や生活の一部として、盆踊りやお祭りなど人の集まる所や、宴会など日常の生活のそばでたたかれていました。

八丈太鼓には挿入歌があり、「太鼓節」は東京都の無形民俗文化財に指定されています。

[檜立踊り]檜立踊り保存会

江戸時代に流人や漂流者、江戸と八丈を往復した御用船の乗組員たちによって伝えられた各地の唄や踊りを、島人たちが島の盆踊りに踊ったものです。

踊りは東京都の無形民俗文化財に指定されている「場踊り」と「手踊り」があり、かつては陰暦の盆(8月15日)と月見(9月13日)に踊ります。1列か2列で前後に動いたり回ったりしながら手拍子を打ち、歌に合わせて囃子言葉を唱えリズムカルに踊っていました。

檜立踊り保存会には次世代への担い手となる若い世代の方たち積極的に参加しており、八丈島の伝統文化を多くの人に伝えています。

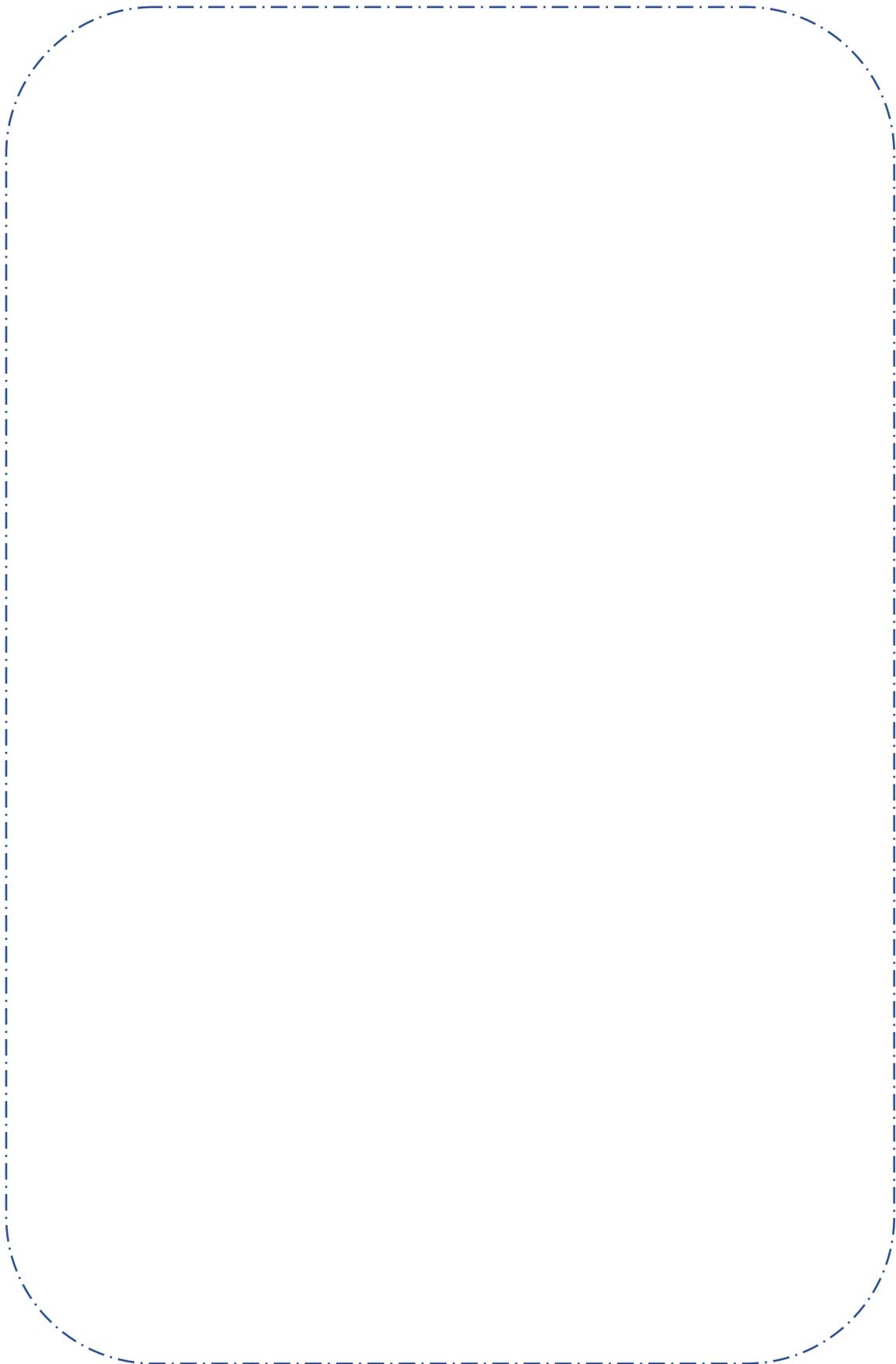
1日目

基調講演

「八丈方言の過去・現在・ 未来」

千葉大学名誉教授

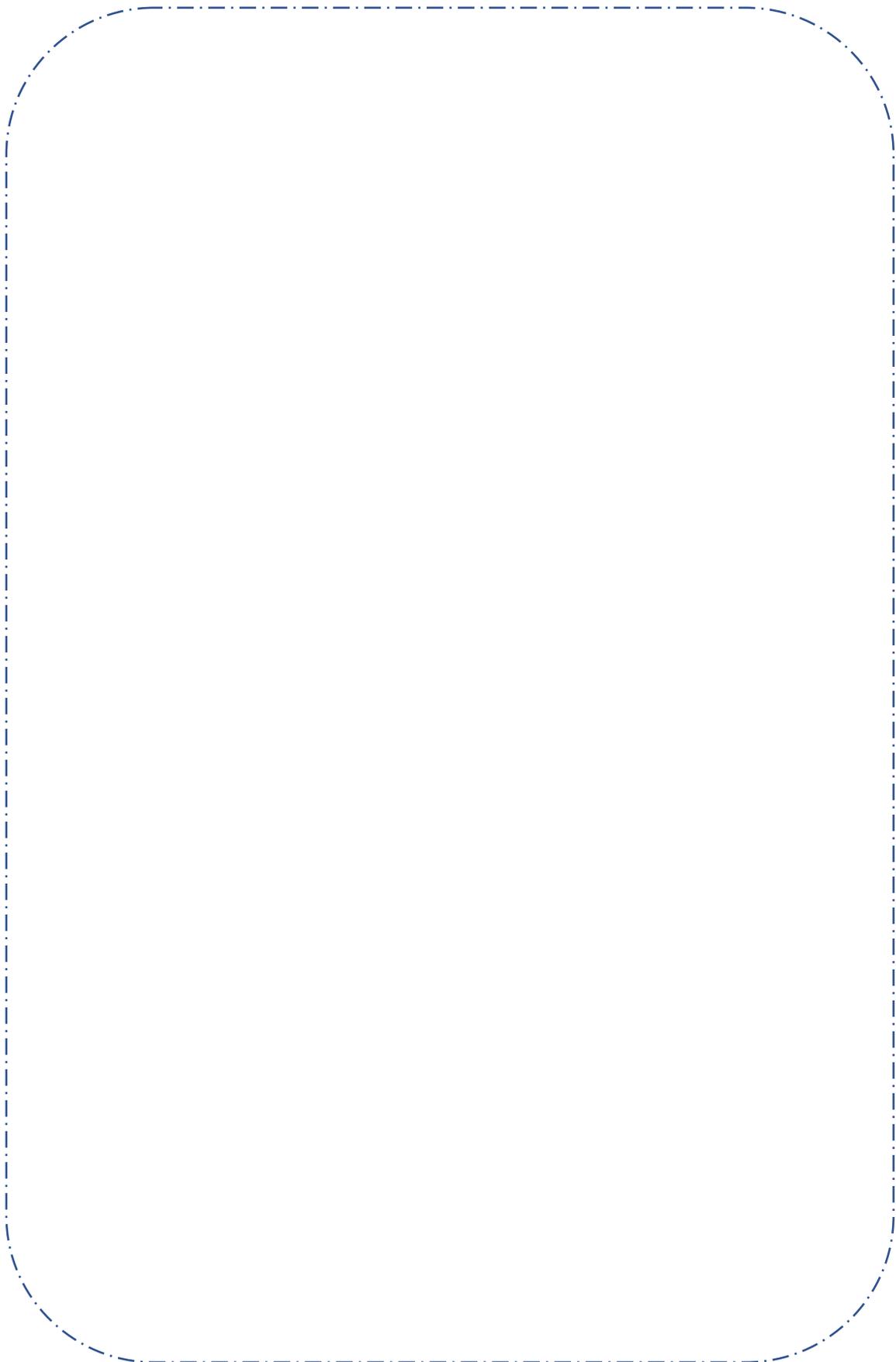
金 田 章 宏



3 八丈方言の位置づけとその重要性

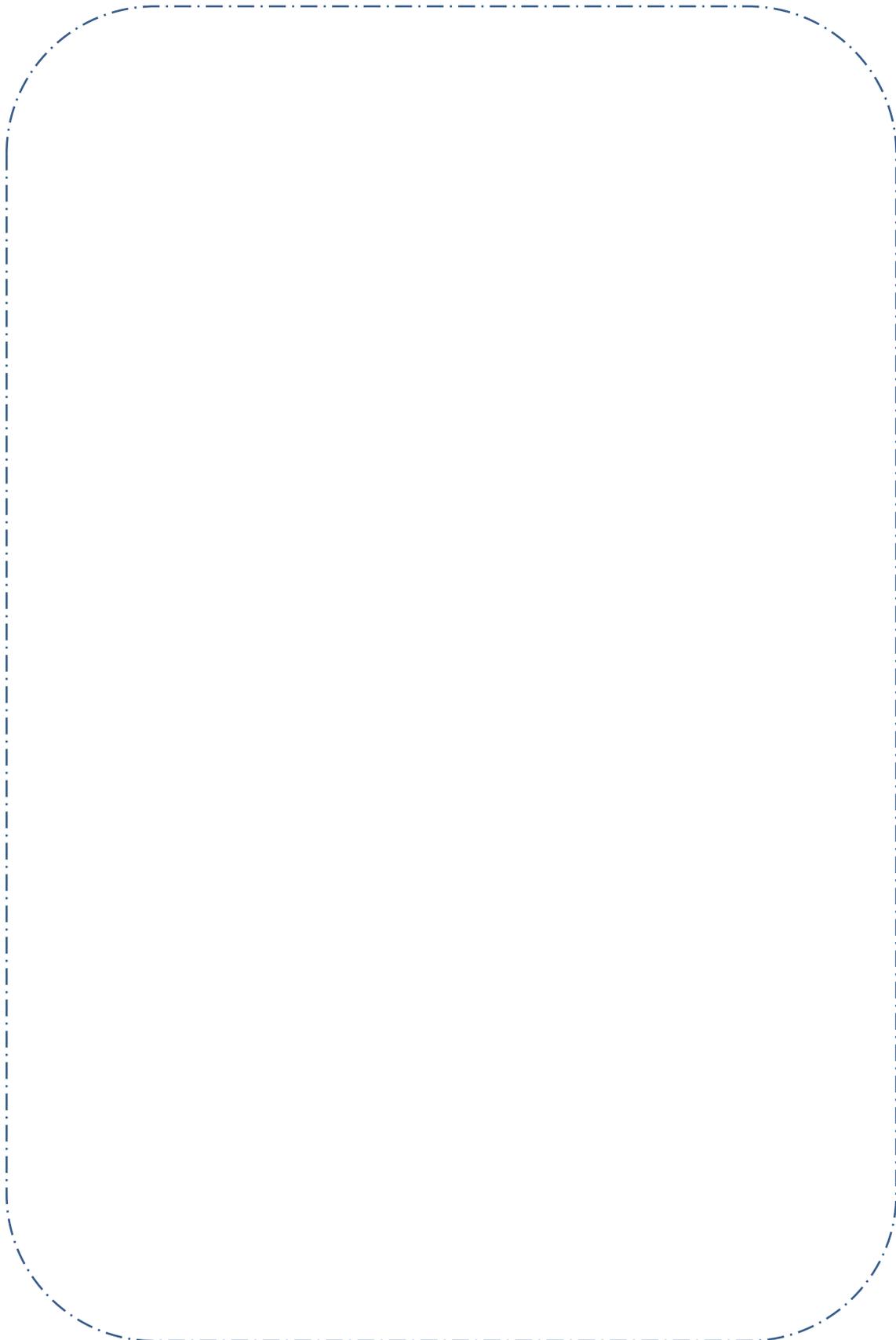
4 南北大東島に残る八丈方言：古層の保持と 独自の变化

5 八丈方言を未来につなぐために



1日目

危機的な状況にある 言語・方言による 表現披露1



[女護ヶ島物語]劇団かぶつ(シニア劇団)

15年ほど前に健康維持と運動不足解消を目指し、60歳以上の素人が結成した劇団です。

特徴は、民話や八丈島の昔話を「八丈方言」で台詞を語って芝居を行うところです。

八丈島の保育園、小学校、中学校での公演も行っており、島民に親しまれている劇団です。

2013年には、山梨県南アルプス市での全国シニア演劇大会にも参加するなど、島内外でも活躍しています。

劇団名の「かぶつ」というのは、八丈島で柑橘系の橙を意味しています。かぶつの果汁は寿司酢の代わりに使われたり、島酒に入れて飲まれています。

<女護ヶ島(によごがしま)物語>

八丈島始祖「たなば」伝説からのお話。

大昔、八丈島を襲った大津波で生き残った腹女(はらめ:妊婦のこと)の「たなば」は、生んだ息子と子孫を残し、八丈島を栄えさせたが、近親相関の罪深さから、海神様のたたりを恐れた島人は、青ヶ島を男だけが住む男島、八丈島を女島として、男女別々に住み、神様の怒りを鎮めた。そして年に一度、青ヶ島から渡ってくる男衆とちぎりを結び、子孫を増やしたのである。

しかし、愛し合う男女はこのしきたりを破り、海を渡って一緒に暮らそうするが、青ヶ島と八丈島を隔てる荒波に男は命を落としてしまう。

【出演者】

山下 和彦、西條 吉広、奥山 善男、清水 増子、土屋 信子、
川上 絢子、吉森 豊美、大久保 陽子、中曾根 松江、岸田 栄美、
池田 喜子

[民謡・踊り・太鼓]加茂川会

加茂川会は、八丈島三根地域の太鼓や踊り、歌など郷土芸能の伝承を目的に活動している団体で、八丈太鼓や民謡の名手であった故奥山熊雄さんの指導のもと、2008年に結成された集団です。

【出演者】

川瀬 喜重子、沖山 操、沖山 次子、浅沼 豊美、長山 育生、
岡馬 よし江、笹本 紀代子

<1. 春山節>

八丈島の無形民俗文化財に指定されている代表的な民謡です。桑摘み唄ともいわれています。唄と唄の合間に、山に桑を摘みにゆく人の会話を方言であらわしています。寸劇には、その場面で残したい八丈島の生活と言葉をみんなで考えながら創り上げました。

<2. 米つき唄>

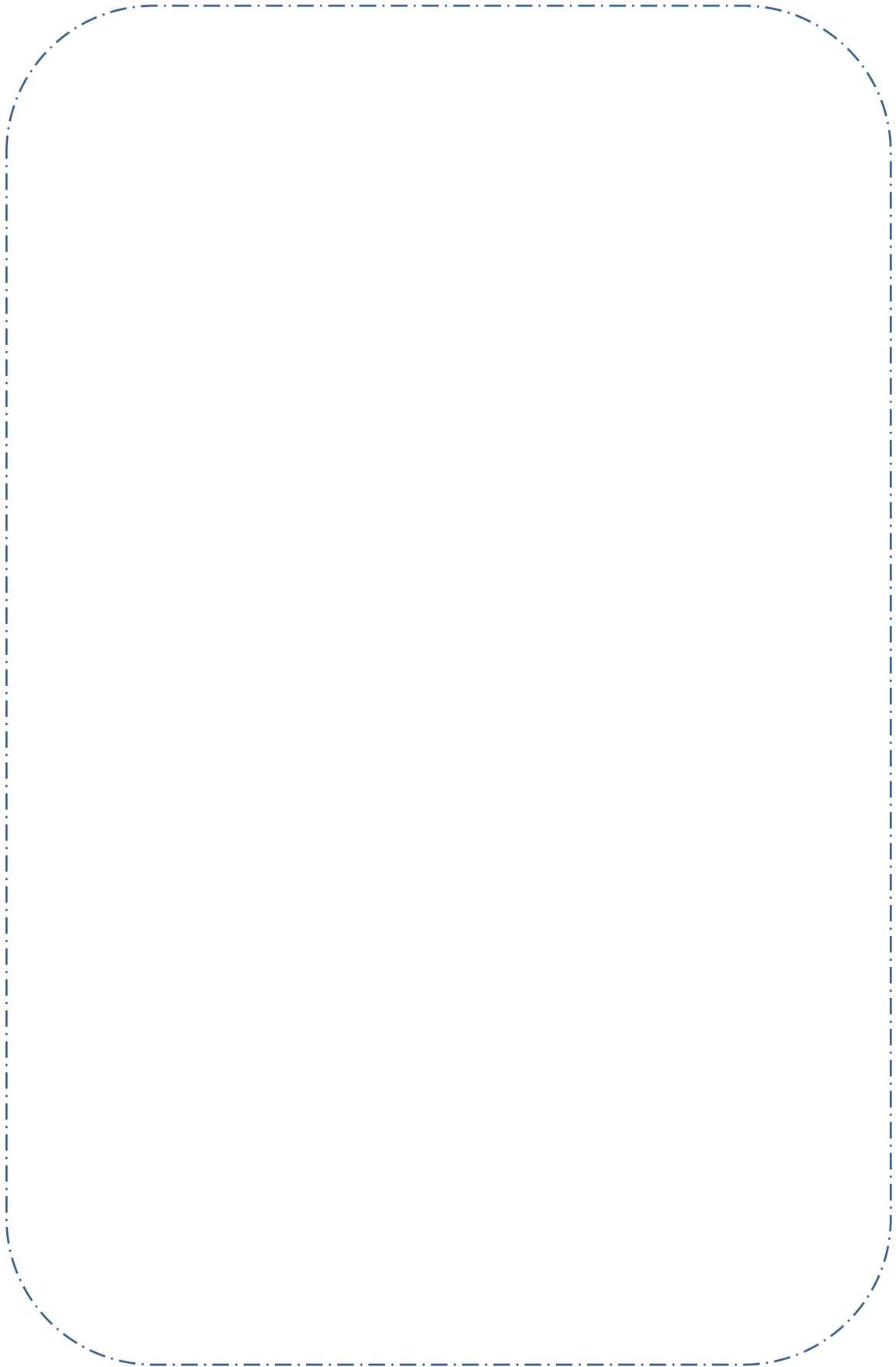
伊豆諸島で唯一米づくりができた八丈島ですが、収穫量は全島民の一月分くらいにしかならず、米は大変貴重なものでした。江戸幕府や漂着船から米をわけてもらおうと、島民は大変喜びました。その時の様子を方言による唄としぐさであらわしています。

<3. いもめとてがめ>

「いもめ」とは、里いものこと、「てがめ」とは手鋤のこと。両方がケンカして、里いもが負けて、食べられてしまう様子を太鼓と唄としぐさであらわしています。

1日目

危機的な状況にある 言語・方言の聞き比べ



「聞き比べ」テキスト

「聞き比べ」では、

●シーン1「年始の挨拶」

●シーン2「乗り物内における空き座席をめぐるやり取り」

を、それぞれの地域の言葉にいただきました。

なお、必ずしも逐語訳にはこだわらず、実際に使い得る表現を意識していただきました。そのため、該当する表現がないという場合もあります。また、表記は翻訳者から提出されたものをそのまま使い、相互に対照しやすいように位置の調整を行いました。

<●シーン1:年始の挨拶>

- ① あけましておめでとうございます
- ② 旧年中は大変お世話になりましたありがとうございます
- ③ 本年もよろしくお願いいたします

<●シーン2:乗り物内における空き座席をめぐるやり取り>

*Bの方がAより年上

- ① A「そこ(の座席は)、空いていますか？」
- ② B「あっ、空いていますよ。」
- ③ A「(座っても)いいですか？」
- ④ B「(はい、)どうぞどうぞ。」
- ⑤ A「ありがとうございます。」
- ⑥ B「どちらから(いらしたの)？」
- ⑦ A「●●からです。どちらから(いらしたん)ですか？」
- ⑧ B「私は、○○から。」
- ⑨ A「御旅行ですか？」
- ⑩ B「そう。金沢まで。」
- ⑪ A「私は帰省なんです。」

【翻訳者・話者】

<舞台左(下手)側から>

南部(八戸): 桎谷 伸夫

新島(本村): 前田 好真江

八丈島(三根): 大澤 幸一

八丈島(大賀郷): 奥山 妙子

八丈島(檜立): <訳> 矢田美津、<話者> 田村 明美

八丈島(中之郷): 秋田 信子

八丈島(末吉): 沖山 恵子

奄美大島(宇検): 鈴木 るり子

喜界島(中間): 吉田 輝倫

沖永良部島(和泊): 田中 美保子

与論島: 菊 秀史

沖縄本島(今帰仁村謝名): 島袋 幸子

沖縄本島(那覇): 高良 ひとみ

宮古島(平良): 下地 トミ子

石垣島(四箇字): 東大濱 剛

与那国島: 眞地 保考

アイヌ語(沙流): 関根 健司

* <シーン1>は、それぞれお一人で①~③を通して発していただきます。

* <シーン2>は、任意のお二人をペアとして、
それぞれ A の役、B の役と役を分けてやっていただきます。

<●シーン1：年始の挨拶>

- ① あけましておめでとうございます
- ② 旧年中は大変お世話になりありがとうございました
- ③ 本年もよろしく願いたします

南部 (梶谷 伸夫)

- ① アゲマシテオメデトウゴザイアンス
- ② 旧年中ハマズマンズオ世話ニナリアンシタナス
アリガトウゴザイアンシタ
- ③ 今年(コドシ)モヨロシグオ願イイダシアンス

新島 (前田 好真江)

- ① ヤーイハ トシムアキチナーエ ショウガツガキチ
マァ オメデトウゴダイマス
- ② ヤーイ メエノトシャア ヨーイニ セワニナッチナーヨ
アイガットウゴダイマシタ
- ③ コトシムヨ マァ タノムヨナー

八丈島(三根) (大澤 幸一)

- ① トシモ アケトオガ ヨケトシン ナルト ヨッキャノー
- ② サクネンワ シッカイ セワニナリ オカゲサマデ オジャロワ
- ③ コトシモ ヨロシク タノミタソワ

八丈島(大賀郷) (奥山 妙子)

- ① トシガ アケータシタラノー ヨケトシニ ナルト ヨッキャノー
- ② キョネンワ エラ セワニ ナリイタシテ オカゲサマヨー
- ③ コトシモ ヨロシク タノミイー タソワ

八丈島（檉立）（田村 明美）

- ① ヨケトシニ シヤロゴンノオ
- ② キョネン イロイロ オセワニ ナリイタシトオガ
- ③ コトシモ ヨロシク オネギヤァー イタソワァ

八丈島（中之郷）（秋田 信子）

- ① アラシケトシニ ナラアジャ ヨケトシニ ナルト ヨッキヤノー
- ② キョネンワ イッピヤァ セワニ ナッテ オカゲサマ
- ③ コトシモ ヨロシク タノモワ

八丈島・末吉（沖山 恵子）

- ① アタラシケ トシニ ナララナー ヨケトシニナルト ヨッケガナー
- ② キョネンワ オセワニ ナラーガナー オカゲサマデ
- ③ コトシモ タノモワヨー

奄美大島（鈴木 るり子）

- ① 年（トシ）ヌ 明（エー）リヤ ヲタスイ ガ
今年（クトシ）ダカ タンミヤ ヲスイ ガ
- ② 年内（トシウチ）ヤ ダンダン アリガテェ サマ アリヨウヲタァ
（トシウチヤ ダンダン ウブクリ アリヨウヲタァ）
- ③ 今年（クトシ）ダカ タンミヤ ヲスイガ

喜界島（吉田 輝倫）

- ① ホーイ ヤーウモ—エッカ
ドーカセーラミートウシモユターサシタボーリ
- ② ナーミニエーフゾーイッペエーヤッケーナティ ウブンクンデータ
- ③ コトシム フズトハワランネーイチネンオネガイセーラ

沖永良部島（田中 美保子）

- ① ヌーリ ヌーリ ミーサヌ トウシガキチ ホーラシャヤー
- ② フズワ チュラーサ
ショウ—ヌガチャンヤー シッタイ ミヘディロドー
- ③ フタビム マタ ウダヌ シャーブラー

与論島 (菊 秀史)

- ① ユカ ショーガチ エービュイ
- ② フドゥナークヤ シッカイ グヤツケー ナイビタン
ミッシーク トートウガナシ
- ③ フタビン ヨロシクニゲーシャービュンドー

沖縄本島 (今帰仁村) (島袋 幸子)

- ① イー ソーグァチ デービル
- ② フジューヤ デージナ シワーナイビタン ニヘーデービタル
- ③ クトウシン ユタシク ウニゲーサビラ

沖縄本島 (那覇) (高良 ひとみ)

- ① イー ソーグワチ デービル
- ② クジュヤ アリクリ ミーカンゲーシ キミソーチ ニフェーデービル
- ③ クントウシン ユタサルグトウ ウニゲーサビラ

沖縄本島 (今帰仁村) (島袋 幸子)

- ① イー ソーグァチ デービル
- ② フジューヤ デージナ シワーナイビタン ニヘーデービタル
- ③ クトウシン ユタシク ウニゲーサビラ

宮古島 (平良) (下地 トミ子)

- ① カギ ショウガツヌドゥ ンミヤーイ ウス°
ゾーゾーヌ ショウガツヤー
- ② クゾー ンニヤ ウイマイカイマイ シワンナリ タンディガータンディ
- ③ クトウスマイ カナッサシー フィーサーチ

石垣島 (四箇字) (東大濱 剛)

- ① ミートウシウ ンカヨーリ イークトウユー!
- ② クジウヤ デージウ シワー ナリ シカイトウ ニファイユー
- ③ クトウシウン ミーシッシ タボーラナーラー

与那国島 (眞地 保考)

- ① イイスンガティンカイ フガラサ
- ② クドゥヤ アラーグ ブンディカンディ フガラサンディドゥ ウマリル
- ③ クトウチン ドゥーディン ヒライトウラシワリ

アイヌ語・沙流 (関根 健司)

- ① アシリパ アウケ ワ シノ ケヤイコブンテク
- ② ホシキパ オツ タ ウサ オカイ ペ アエネカスイ ワ
ソノ イヤイライケレ
- ③ タンパ カ ピリカ ウコアプカシ アキ ナンコン ナ

<●●シーン2：乗り物内における空き座席をめぐるやり取り>

- ① A「そこ（の座席は）、空いていますか？」
- ② B「あっ、空いていますよ。」
- ③ A「（座っても）いいですか？」
- ④ B「（はい、）どうぞどうぞ。」
- ⑤ A「ありがとうございます。」
- ⑥ B「どちらから（いらしたの）？」
- ⑦ A「●●からです。どちらから（いらしたん）ですか？」
- ⑧ B「私は、〇〇から。」
- ⑨ A「御旅行ですか？」
- ⑩ B「そう。金沢まで。」
- ⑪ A「私は帰省なんです。」

南部 (梶谷 伸夫)

- ① A「ソゴア、空（ア）イデオリアンスガイ？」
- ② B「オッ、空（ア）イデオリアンスエ。」
- ③ A「ネマッテモ、ヨゴアンスベガ？」
- ④ B「ナンモナンモ、ドンゾドンゾ。」
- ⑤ A「アリガトウゴザイアンス。」
- ⑥ B「ドッカラオイデニナリアンシタノスカ？」
- ⑦ A「八戸（ハチノヘ）カラデアンス。
ソチラサンハ、ドッカラデアンスノスカ？」
- ⑧ B「ワァ、五戸（ゴノヘ）ガラデアンス。」
- ⑨ A「ゴ旅行（リョコウ）デアンスカ？」
- ⑩ B「ンダ。金沢（カナザワ）マデナス。」
- ⑪ A「オラァ、家（エ）ツコサ戻（モド）ルドゴデアンスンダ。」

新島 (前田 好真江)

- ① A「ヤーイ スマネエナーヨ ソコノ セキヤー エーチューローカヨー？」
- ② B「オー エーチュード。」
- ③ A「フンジャア サアーツチム イイロウカ？」
- ④ B「ヤーイ サアーイヨ サアーイヨ。」
- ⑤ A「ヤーイ ウーシャーナー アイガットウゴダイマス。」
- ⑥ B「イシャー ドッカー キタダヨ？」
- ⑦ A「オラー ニイジマッカー キタダヨ。イシャー ドッカー キタダヨ？」
- ⑧ B「オラー シモダッカー キタダヨ。」
- ⑨ A「イシャー リョコウ シチューンカ？」
- ⑩ B「ソウダド。金沢（カナザワ）マジ イクダヨ。」
- ⑪ A「オラー イーイト ケーウダヨ。」

八丈島 (三根) (大澤 幸一)

- ① A「ソコワ アイテ オジャロカ？」
- ② B「オウ アイテ オジャロワヨー。」
- ③ A「スワッテモ ヨク オジャロカ？」
- ④ B「オウ ヨク オジャロジャ スワッテ タモウレ。」
- ⑤ A「オカゲサマ ドオジャ。」
- ⑥ B「ドッカラ オジャリヤロウ？」
- ⑦ A「八丈島（ハチジョウシマ） ドオジャ。
ドッカラ キイタシタカノー？」
- ⑧ B「アラ クニカラ ドウジャ。」（注：クニ＝江戸（東京））
- ⑨ A「リョコウデ オジャロカ？」
- ⑩ B「ソゴンダラ 金沢（カナザワ）ゲー。」
- ⑪ A「アラ サトゲーリ ドオジャ？」

八丈島（大賀郷）（奥山 妙子）

- ① A「コノセキワ アイテアリヤロカ？」
- ② B「オー アイテ アリヤロワヨ。」
- ③ A「スワッテモ ヨクオジャロカ？」
- ④ B「オー ヨケジャ スワッテ タモウレ。」
- ⑤ A「オカゲサマ。」
- ⑥ B「ドコカラ オジャリヤッタカノー？」
- ⑦ A「八丈島（ハチジョウシマ）」 カラドウガ
オメエワ ドコカラ オジャリヤロウカ？」
- ⑧ B「ワイワ クニカラ メイララー。」（注：クニ=江戸（東京））
- ⑨ A「タビゲエー オジャロダ？」
- ⑩ B「ソゴンデ オジャロワ カナザワゲー。」
- ⑪ A「ワゲエニ ケエッテ キトウ ダケドウガ。」

八丈島（榎立）（田村 明美）

- ① A「ソコワ アイテ オジャロウカ？」
- ② B「オウ アイタアロワ。」
- ③ A「ワガ スワッテ ヨク オジャロカ？」
- ④ B「ヨク オジャロワ スワリヤレ。」
- ⑤ A「ワァ オカゲサマァ。」
- ⑥ B「オミヤア ドツカラ オジャリヤロ？」
- ⑦ A「ワラ 八丈島（ハチジョウシマ）カラ キイ イタシタラ。」
- ⑧ B「ワレモ 八丈島（ハチジョウシマ）カラ キタラ。」
- ⑨ A「リョコウデ オジャル？」
- ⑩ B「オウ 金沢（カナザワ）マデ。」
- ⑪ A「ワラ サトギヤアリダラ。」

八丈島（中之郷）（秋田 信子）

- ① A「ソコワ アイテ オジャル？」
- ② B「アイタロワヨ。」
- ③ A「スワッテモ ヨク オジャル？」
- ④ B「ヨケジャ スワリヤレ。」
- ⑤ A「オカゲサマ。」
- ⑥ B「ドツカラ オジャリヤッタ？」
- ⑦ A「八丈（ハチジョウ）カラデス ドツカラ オジャリヤッタ？」
- ⑧ B「アラ 八丈（ハチジョウ）カラダラ。」
- ⑨ A「リョコウデ オジャロカ？」
- ⑩ B「ソガンダラ 金沢（カナザワ）へ イコダラ。」
- ⑪ A「アラ ワガエニ カエリタソワ。」

八丈島・末吉 (沖山 恵子)

- ① A「ソコワ アイタアロカ？」
- ② B「へー アイタアロワ。」
- ③ A「スワッテモ ヨケカ？」
- ④ B「オー ヨケジャ スワリヤレ。」
- ⑤ A「アイヤイ オカゲサマ。」
- ⑥ B「ドッカラ オジャラー？」
- ⑦ A「クニカラ キタージャン オメエワ ドコカラ オジャラー？」
- ⑧ B「アラ 八丈 (ハチジョウ) カラ キタージャン。」(注:クニ=江戸 (東京))
- ⑨ A「リョコウデ オジャラアカ？」
- ⑩ B「へエ カナザワウエー イコダージャン。」
- ⑪ A「アラ サトゲーリ ダージャン。」

奄美大島 (鈴木 るり子)

- ① A「ウマ ヌ 席 (セキ) ヤ アチュリヤ ヲツカイ？」
- ② B「イー アチュッド。」
- ③ A「座 (イー) チン イッチャ リョ ヲツカイ？」
- ④ B「イー イッチャッド。(イーリイー イーリイー。)」
- ⑤ A「アリガティサマアリョウラン。」
- ⑥ B「ダラー イモリン ショチヨ？」
- ⑦ A「奄美大島 (アマミオオシマ) カラ ダリョウヲッド
ナンミヤ ダアーラ イモリン ショチヨ？」
- ⑧ B「ワンナ 奄美大島 (アマミオオシマ) カラ キャーヲタッドウ。」
- ⑨ A「ダーチヲ 旅 (タビ) ダリョウヲツカイ？」
- ⑩ B「金沢 (カナザワ) ガ デイド。」
- ⑪ A「ワン ナ シマチ ムドリ ダリョウヲッド。」

喜界島 (吉田 輝倫)

- ① A「スメーランガ ナーミノユクノイスヤアチュッカ？」
- ② B「エー アチュエンデンドー。」
- ③ A「Yi チムサームアエーラカ？」
- ④ B「タルム We—ランデンガ サームアエーランデンドー。」
- ⑤ A「ウブクンデール。」
- ⑥ B「ジャーカラウモーチャスデーヨ？」
- ⑦ A「喜界島 (キカイジマ) デー ナーメージャーカラデー？」
- ⑧ B「ワンノー大島 (ウーシマ) デンガ。」
- ⑨ A「タビデッカ？」
- ⑩ B「アッシデンガ、カナザワマディデー。」
- ⑪ A「ワンノー シマムデュヤーヌーデンガ。」

沖永良部島 (田中 美保子)

- ① A 「‘マーヌ セキワ アチウヤブンカヤー？」
- ② B 「イン アチュンドー。」
- ③ A 「イ`チム ユカアヤボエー？」
- ④ B 「ユカンドー ウダウダ。」
- ⑤ A 「ミヘディロドー。」
- ⑥ B 「ウダカラ キチヨ (モーチヨ) ？」
- ⑦ A 「沖永良部 (オキノエラブ) カラ チャーブタン
ナタワ ウダーカラ モーチヨー？」
- ⑧ B 「ワナ 鹿児島 (カゴシマ) カラドー。」
- ⑨ A 「旅行 (リョコウ) ディロナー？」
- ⑩ B 「イン 金沢 (カナザワ) タベー。」
- ⑪ A 「ワヌワ シマチ ムドゥユヌ トウクルディロドー。」

与論島 (菊 秀史)

- ① A 「ウモー アッチュヤビュンミー ハン？」
- ② B 「アッ アッチュヤビュンダー。」
- ③ A 「ナイビュンゲーラ？」
- ④ B 「オー イダー イダー。」
- ⑤ A 「トートウガナシ。」
- ⑥ B 「イダカラエービュンガ？」
- ⑦ A 「与論島 (ヨロンジマ) カラエービュン。
ウレーヤ イダカラエービュンガ？」
- ⑧ B 「ワナー 八丈島 (ハチジョウジマ) カラ。」
- ⑨ A 「タビシチエンチイー？」
- ⑩ B 「ガシ 金沢 (カナザワ) シタナ。」
- ⑪ A 「ワナー シマカティ ムデュンチエービュン。」

沖繩本島（今帰仁村）（島袋 幸子）

- ① A「マヌ ジャーヤ アチュイビンナー？」
- ② B「イン アチュンドー。」
- ③ A「イチン シマビーガヤー？」
- ④ B「イン トートー イレー。」
- ⑤ A「ニヘーデービル。」
- ⑥ B「ダーラ チャーガ？」
- ⑦ A「沖繩（ウチーナー）ラ エービン
ウンジュヤ ダーラ マンソーチャガ？」
- ⑧ B「ワヌーヤ 鹿兒島（カグシマー）ラ ドー。」
- ⑨ A「リョコードウ エービンナー？」
- ⑩ B「イン 金沢（カナザワ）マディヨー。」
- ⑪ A「ワヌーヤ シマーチ エンドー。」

沖繩本島（那覇）（高良 ひとみ）

- ① A「ウマヤ アチョーイビーガヤ？」
- ② B「ウー アチョーンドオー。」
- ③ A「イチン シマビーガヤー？」
- ④ B「イー ウマンカイ。」
- ⑤ A「ニフェーデービル。」
- ⑥ B「イヤヤー マーカラヤガ？」
- ⑦ A「那覇（ナーファ）カラ ヤイビーン
ウンジョー マーカラ マンソーチャガ？」
- ⑧ B「ワンネー ヤンバルカラ。」
- ⑨ A「タビシドゥ アッチミセーンナー？」
- ⑩ B「イー 金沢（カナザワ）マディ。」
- ⑪ A「ワンネー シマンカイ ムドゥイルミチナカ ヤイビーン。」

宮古島（平良）（下地 トミ子）

- ① A「ウマアー（ウヌセキヤー） アキドゥ ウス° ナ？
（アキドゥービャーヤー？）」
- ② B「アシ アキドゥース°（サーイ）。」
- ③ A「ビジャーマイ ジョウブン ビャーヤー？」
- ④ B「アシ ビザーチ。」
- ⑤ A「タンディガータンディ。」
- ⑥ B「ンザカラガ ンミャータリヤー？」
- ⑦ A「ウキ° ナーヌ ミャークカラ ンザカラガ ンミャータリヤー？」
- ⑧ B「バーヤー ヤーマカラ。」
- ⑨ A「タビュード シーウラース° ナ？」
- ⑩ B「アシ 金沢（カナザワ）ガミ。」
- ⑪ A「バーヤー ヤーンカイサーイ。」

石垣島（四箇字）（東大濱 剛）

- ① A「ウマヤ アキドゥ ウル？」
- ② B「オー アキドゥ ウルユー。」
- ③ A「ビラバン ミシャーンカヤ〜？」
- ④ B「オー ミシャーンユー。」
- ⑤ A「ニファイユー。」
- ⑥ B「ジウマカラドゥ オーリウダ〜（オーッタ ネーラー）？」
- ⑦ A「石垣島（イシャナギラ）カラドゥ キューダユー
ジウマカラドゥ オーリウダ〜（オーッタ ネーラー）？」
- ⑧ B「バナー 沖繩（ウキナー）カラ。」
- ⑨ A「タビドゥ シーオーリウ？」
- ⑩ B「アンジ バナー 金沢（カナザワ）マディ（ハルン）。」
- ⑪ A「バナー ドゥーヌ ヤームトゥカイ ムドウル トウクルドゥ ヤル。」
（マリジウマ）

与那国島 (眞地 保考)

- ① A「ウマヤ ターン ントウイブラヌカヤ？」
- ② B「ン ターン ントウイブラヌド。」
- ③ A「ントウイ ンサカヤ？」
- ④ B「ンサンド ントウリ ントウリ。」
- ⑤ A「アラグ フガラサンディドゥ ウマリル。」
- ⑥ B「ンマガラ (ワイスンガ)？」
- ⑦ A「与那国島 (ドゥナンチマ) ガラドゥ スル ンマガラ ワイスンガ？」
- ⑧ B「アヌヤ 本土 (ダマトゥ) ヌ 大阪 (オオサカ) ガラ。」
- ⑨ A「タビドゥ キーワルナ？」
- ⑩ B「イシ 金沢 (カナザワ) クタ。」
- ⑪ A「アヌヤ ドゥヌチマンキ カイシヒル ドゥグルドゥ ナイブル。」

アイヌ語・沙流 (関根 健司)

- ① A「トアン ソ ネン カ ア カ ソモ キ ルウエ？」
- ② B「ネン カ ア カ ソモ キ ルウエ ウン。」
- ③ A「ヤッカ ピリカ？」
- ④ B「ピリカ ピリカ。」
- ⑤ A「イヤイライケレ。」
- ⑥ B「フナク ワ エエク？」
- ⑦ A「●● ワ ケク フナク ワ エエク？」
- ⑧ B「カニ ○○ ワ ケク。」
- ⑨ A「エオマナン クニ エアプカシ ルウエ？」
- ⑩ B「ルウエ ウン 金沢 (カナザワ) パクノ カラパ。」
- ⑪ A「カニ クコロ コタノルン クホシピ コロ カン ルウエ ネ。」

実際に<●シーン2>のやり取りを行うペア

□Aの役 — □Bの役

- 【ペア1】 南部(柗谷) — 奄美(鈴木)
- 【ペア2】 石垣(東大瀆) — 新島(前田)
- 【ペア3】 今帰仁村(島袋) — 八丈・三根(大澤)
- 【ペア4】 八丈・大賀郷(奥山) — 沖永良部(田中)
- 【ペア5】 八丈・檜立(田村) — 与論(菊)
- 【ペア6】 喜界(吉田) — 八丈・中之郷(秋田)
- 【ペア7】 与那国(眞地) — 八丈・未吉(沖山)
- 【ペア8】 宮古(下地) — 南部(柗谷)
- 【ペア9】 アイヌ(関根) — 沖縄(高良)

【ペア1】 A:南部(梶谷) — B:奄美(鈴木)

- ① A (南部)「ソゴァ、空 (ア) イデオリアンスガイ？」
- ② B (奄美)「イーン アチュッド。」
- ③ A (南部)「ネマッテモ、ヨゴアンスベガ？」
- ④ B (奄美)「イーン イッチャッド。(イーリィー イーリィー。)」
- ⑤ A (南部)「アリガトウゴザイアンス。」
- ⑥ B (奄美)「ダァラー イモリン ショチヨ？」
- ⑦ A (南部)「八戸 (ハチノヘ) カラデアンス。
ソヂラサンハ、ドッカラデアンスノスカ？」
- ⑧ B (奄美)「ワンナ 奄美大島 (アマミオオシマ) カラ キャーヲタッドウ。」
- ⑨ A (南部)「ゴ旅行 (リョコウ) デアンスカ？」
- ⑩ B (奄美)「金沢 (カナザワ) ガ デイド。」
- ⑪ A (南部)「オラァ、家 (エ) ッコサ戻 (モド) ルドゴデアンスンダ。」

Q どんな発音？

- ③ A (奄美)「座 (イー) チィン イッチャ リョ ヲッカイ?」
- ⑪ A「ワン ナ シマチ ムドリ ダリョウヲッド。」

【ペア2】 A:石垣(東大濱) — B:新島(前田)

- ① A (石垣)「ウマヤ アキドゥ ウル？」
- ② B (新島)「オー エーチュード。」
- ③ A (石垣)「ピラバン ミシャーンカヤ〜？」
- ④ B (新島)「ヤーイ サァーイヨ サァーイヨ。」
- ⑤ A (石垣)「ニファイユ。」
- ⑥ B (新島)「イシャー ドッカー キタダヨ？」
- ⑦ A (石垣)「石垣島 (イシャナギラ) カラドゥ キューダユー
ジウマカラドゥ オーリウダ〜 (オーッタ ネーラー)？」
- ⑧ B (新島)「オラー シモダッカー キタダヨ。」
- ⑨ A (石垣)「タビドゥ シーオーリウ？」
- ⑩ B (新島)「ソウダド。金沢 (カナザワ) マジ イクダヨ。」
- ⑪ A (石垣)「バナー ドゥーヌ ヤームトゥカイ ムドゥル
(マリジウマ) トウクルドゥ ヤル。」

【ペア3】 A:今帰仁村(島袋) — B:八丈・三根(大澤)

- ① A (今帰仁)「マーマヌ ジャーヤ アチュイビンナー？」
- ② B (三根)「オウ アイテ オジャロワヨー。」
- ③ A (今帰仁)「イチン シマビーガヤー？」
- ④ B (三根)「オウ ヨク オジャロジャ スワッテ タモウレ。」
- ⑤ A (今帰仁)「ニヘーデービル。」
- ⑥ B (三根)「ドッカラ オジャリヤロウ？」
- ⑦ A (今帰仁)「沖縄 (ウチーナー) ラ エービン
ウンジュヤ ダーラ マンソーチャガ？」
- ⑧ B (三根)「アラ クニカラ ドウジャ。」(注:クニ=江戸(東京))
- ⑨ A (今帰仁)「リョコードウ エービンナー？」
- ⑩ B (三根)「ソゴンダラ 金沢 (カナザワ) ゲー。」
- ⑪ A (今帰仁)「ワヌーヤ シマーチ エンドー。」

Q どんな発音？

- ④ B (今帰仁)「イン トートー イレー。」

【ペア4】 A:八丈・大賀郷(奥山) — B:沖永良部(田中)

- ① A (大賀郷)「コノセキワ アイテアリヤロカ？」
- ② B (沖永良部)「イン アチュンドー。」
- ③ A (大賀郷)「スワッテモ ヨクオジャロカ？」
- ④ B (沖永良部)「ユカンドー ウダウダ。」
- ⑤ A (大賀郷)「オカゲサマ。」
- ⑥ B (沖永良部)「ウダカラ キチヨ (モーチヨ)？」
- ⑦ A (大賀郷)「八丈島 (ハチジョウシマ)」 カラドウガ
オメエワ ドコカラ オジャリヤロウカ？」
- ⑧ B (沖永良部)「ワナ 鹿児島 (カゴシマ) カラドー。」
- ⑨ A (大賀郷)「タビゲエー オジャロダ？」
- ⑩ B (沖永良部)「イン 金沢 (カナザワ) タベー。」
- ⑪ A (大賀郷)「ワゲエニ ケエッテ キトウ ダケドウガ。」

Q どんな発音？

- ① A (沖永良部)「マーマヌ セキワ アチウヤブンカヤー？」
- ③ A (沖永良部)「イ`チム ユカアヤボエー？」

【ペア5】 A:八丈・檜立(田村) — B:与論(菊)

- ① A (檜立)「ソコワ アイテ オジャロウカ？」
- ② B (与論)「アッ アッチュヤビュンダー。」
- ③ A (檜立)「ワガ スワッテ ヨク オジャロカ？」
- ④ B (与論)「オー イダー イダー。」
- ⑤ A (檜立)「ワァ オカゲサマァ。」
- ⑥ B (与論)「イダカラエービュンガ？」
- ⑦ A (檜立)「ワラ 八丈島 (ハチジョウシマ) カラ キイ イタシタラ。」
- ⑧ B (与論)「ワナー 与論島 (ヨロンジマ) カラ。」
- ⑨ A (檜立)「リョコウデ オジャル？」
- ⑩ B (与論)「ガシ 金沢 (カナザワ) ンタナ。」
- ⑪ A (檜立)「ワラ サトギヤアリダラ。」

Q どんな発音？

- ⑨ A「タビシチイエンチー？」

【ペア6】 A:喜界(吉田) — B:八丈・中之郷(秋田)

- ① A (喜界)「スメーランガ ナーミノユクノイスヤアチュッカ？」
- ② B (中之郷)「アイタロワヨ。」
- ③ A (喜界)「Yi チムサームアエーラカ？」
- ④ B (中之郷)「ヨケジャ スワリヤレ。」
- ⑤ A (喜界)「ウブクンデール。」
- ⑥ B (中之郷)「ドッカラ オジャリヤッタ？」
- ⑦ A (喜界)「喜界島 (キカイジマ) デー ナーメージャーカラデー？」
- ⑧ B (中之郷)「アラ 八丈 (ハチジョウ) カラダラ。」
- ⑨ A (喜界)「タビデッカ？」
- ⑩ B (中之郷)「ソガンダラ 金沢 (カナザワ) へ イコダラ。」
- ⑪ A (喜界)「ワンノー シマムデュヤーヌーデンガ。」

Q どんな発音？

- ④ B (喜界)「タルム We—ランデンガ サームアエーランデンドー。」

【ペア7】 A:与那国(眞地) — B:八丈・末吉(沖山)

- ① A (与那国)「ウマヤ ターン ントウイブラヌカヤ？」
- ② B (末吉)「へー アイタアロワ。」
- ③ A (与那国)「ントウイ ンサカヤ？」
- ④ B (末吉)「オー ヨケジャ スワリヤレ。」
- ⑤ A (与那国)「アラーグ フガラサンディドウ ウマリル。」
- ⑥ B (末吉)「ドッカラ オジャラー？」
- ⑦ A (与那国)「与那国島(ドゥナンチマ) ガラドウ スル ンマガラ
ワイスンガ？」
- ⑧ B (末吉)「アラ 八丈(ハチジョウ) カラ キタージャン。」
- ⑨ A (与那国)「タビドウ キーワルナ？」
- ⑩ B (末吉)「へエ カナザワウエー イコダージャン。」
- ⑪ A (与那国)「アヌヤ ドウヌチマンキ カイシヒル ドウグルドウ
ナイブル。」

【ペア8】 A:宮古(下地) — B:南部(梶谷)

- ① A (宮古)「ウマアー (ウヌセキヤー) アキドウ ウス° ナ?
(アキドゥービャーヤー?)」
- ② B (南部)「オッ、空(ア) イデオリアンスエ。」
- ③ A (宮古)「ビジャーマイ ジョウブン ビャーヤー？」
- ④ B (南部)「ナンモナンモ、ドンゾドンゾ。」
- ⑤ A (宮古)「タンディガータンディ。」
- ⑥ B (南部)「ドッカラオイデニナリアンシタノスカ？」
- ⑦ A(宮古)「ウキ° ナーヌ ミャークカラ ンザカラガ ンミャータリヤー？」
- ⑧ B (南部)「ワァ、五戸(ゴノヘ) ガラデアンス。」
- ⑨ A (宮古)「タビュード シーウラース° ナ？」
- ⑩ B (南部)「ンダ。金沢(カナザワ) マデナス。」
- ⑪ A (宮古)「バーヤー ヤーンカイサーイ。」

Q どんな発音？

- ② B (宮古)「アシ アキドゥース° (サーイ)。」

【ペア9】 A:アイヌ(関根) — B:沖縄(高良)

- ① A (アイヌ)「トアン ソ ネン カ ア カ ソモ キ ルウエ？」
- ② B (沖縄)「ウー アチョーンドオー。」
- ③ A (アイヌ)「ヤッカ ピリカ？」
- ④ B (沖縄)「イー ウマンカイ。」
- ⑤ A (アイヌ)「イヤイライケレ。」
- ⑥ B (沖縄)「ィヤーヤー マーカラヤガ？」
- ⑦ A (アイヌ)「●● ワ ケク フナク ワ エエク？」
- ⑧ B (沖縄)「ワンネー ヤンバルカラ。」
- ⑨ A (アイヌ)「エオマナン クニ エアプカシ ルウエ？」
- ⑩ B (沖縄)「イー 金沢 (カナザワ) マディ。」
- ⑪ A (アイヌ)「カニ クコロ コタノルン クホシピ コロ カン
ルウエ ネ。」

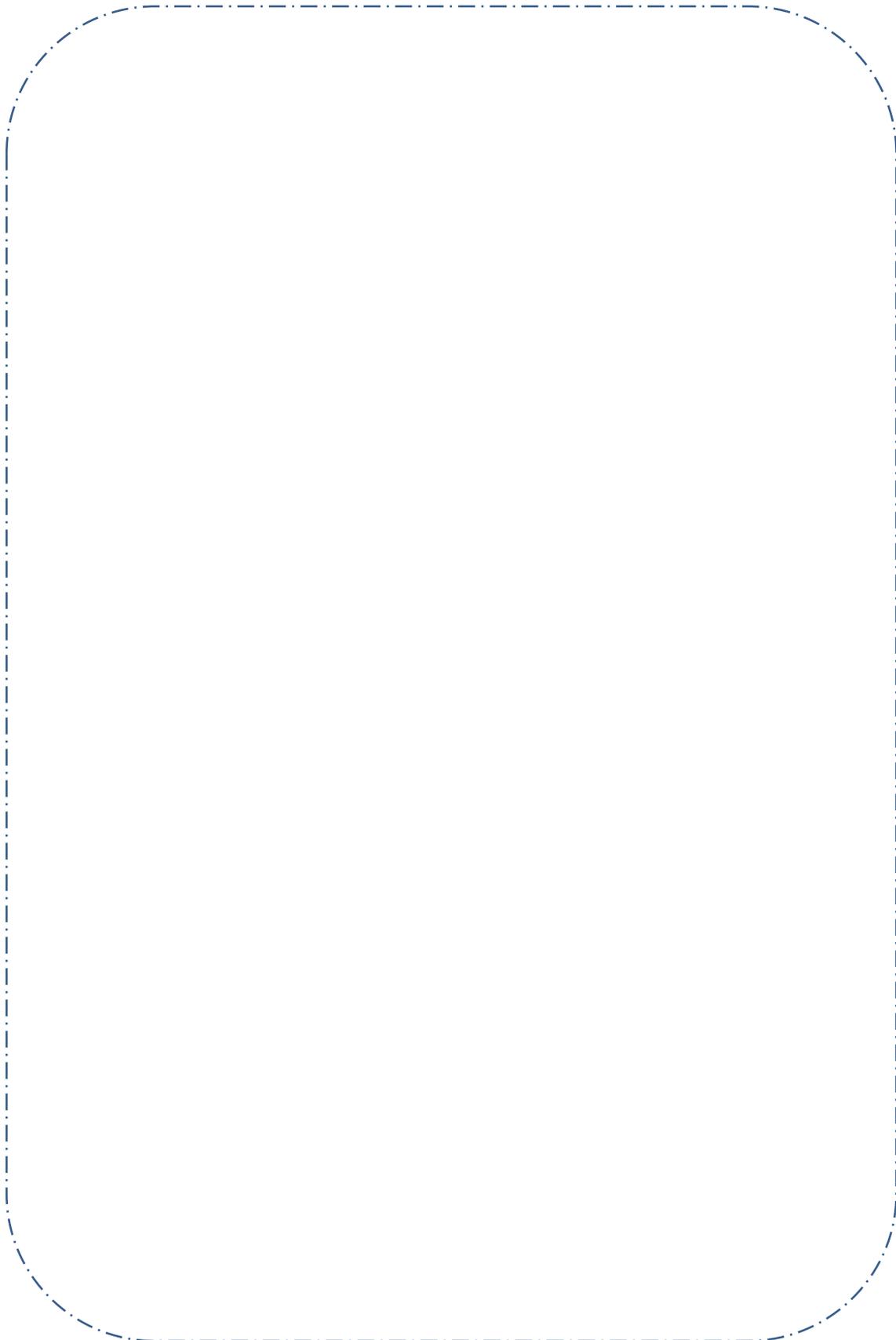
Q どんな発音？

- ⑥ B (アイヌ)「フナク ワ エエク？」
- ⑩ B (アイヌ)「ルウエ ウン 金沢 (カナザワ) パクノ カラパ。」

1日目

危機的な状況にある 言語・方言による 表現披露2

「ちがっても、同じ 指小辞の話」



[ちがっても同じ～指小辞の話]

東北地方 榎谷 伸夫(青森県八戸出身)

沖縄地方 山入端 信之(沖縄県南城市出身)

八丈島 浅沼 千枝子、山崎 静子

研究者 三樹 陽介(駒澤大学文学部准教授)

進行 茂手木 清(八丈町教育委員会)

このコーナーでは、日本のいくつかの地域の指小辞を紹介してもらいます。八丈島では「～め」ですが、他の地方ではどうなのか。その言葉の使い方はどうでしょうか？

<指小辞>

八丈島の方言では、子牛のことを「ちょんこめ」、犬のことを「いぬめ」、赤ちゃんのことは「あっぱめ」といいます。この名前の後につける「〇〇め」のことを指小辞と言います。

東北地方では「〇〇っこ」が付きます。牛ならば、「べこっこ」、犬ならば「いぬっこ」などになります。

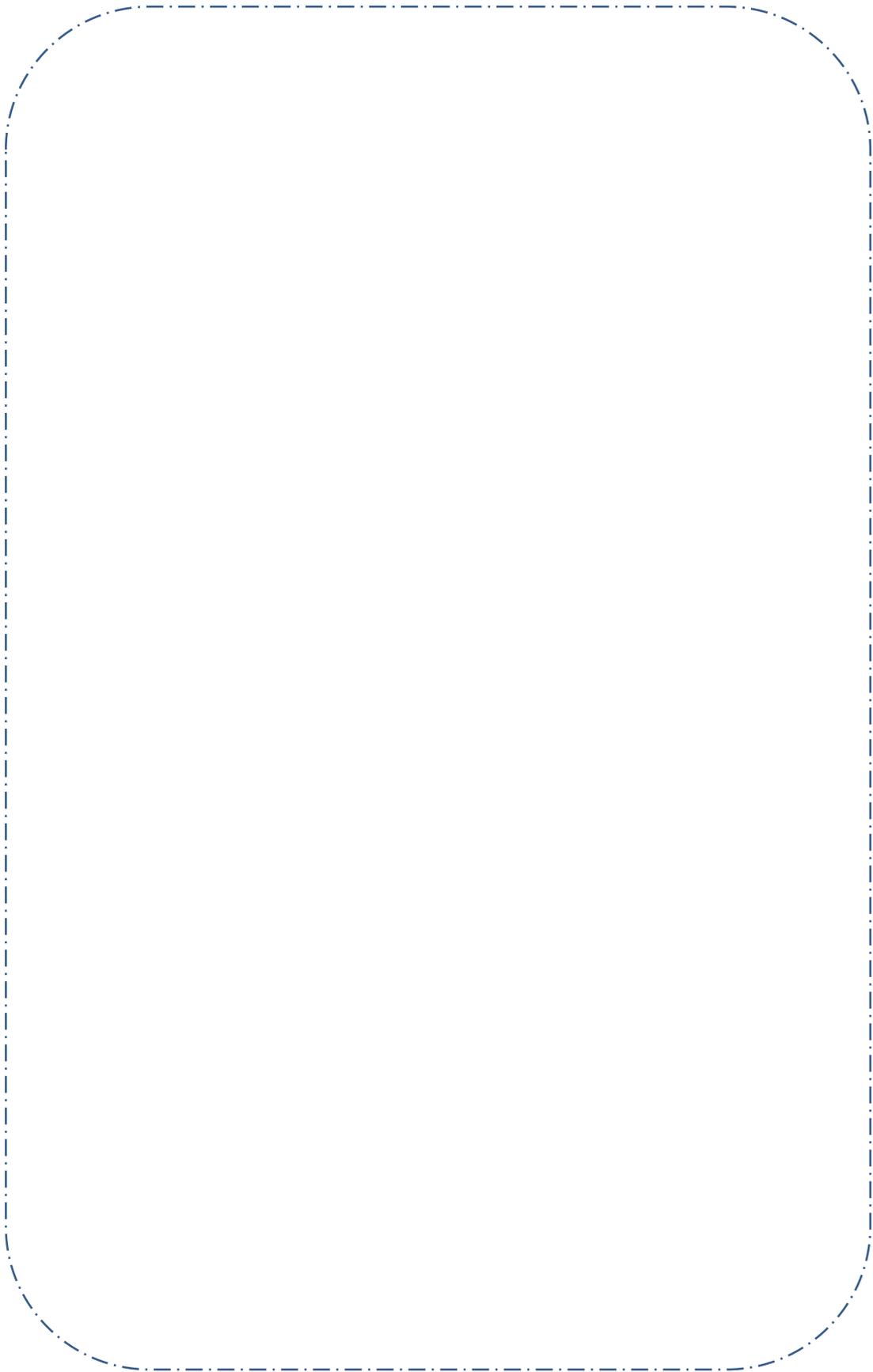
また、沖縄県本島では「〇〇ぐわー」になり、犬なら「いんぐわー」、猫なら「まやーぐわー」になります。

意味は、どこの方言でも「小さくて可愛いもの」「親しみを表すもの」に指小辞がつくものが多いのですが、八丈島の言葉には普通のかわいいものや、小さいものに使う「め」とは、違う使い方する「め」があります。

この使い方をどう考えるか、他の地域ではこのような使い方があるのかどうなのか？いろいろ興味のわく指小辞を皆さんと一緒に考えます。

1日目

ブースアピール
～
ブース発表



ブース発表

ブース A：八丈町の取組

八丈町教育委員会

ブース B：二風谷アイヌ工芸 katak

関根真紀、関根健司

ブース C：昔話を活用した方言の保存・継承活動
：茨城での取組みを中心に

杉本妙子

ブース D：静岡・井川方言（静岡理工科大学）

谷口ジョイ

ブース E：新島方言について

昔の暮らしとことば研究会

ブースF：ユンヌフトゥバ「与論島の言葉」

菊秀史、南勇輔

ブースG：沖縄県しまくとぅば普及センター

沖縄県しまくとぅば普及センター

ブースH：みゃーくふつ やまかさ きっかでい

(みゃーくふつをいっぱい聴こう)

藤田ラウンド幸世、謝敷勝美

ブースI：どうなんちま（与那国）

与那国町教育委員会

ブースJ：沖永良部島の辞書制作

沖永良部語習得プログラム

横山晶子、田中美保子ほか

ブースK：国立国語研究所・消滅危機言語の
保存研究プロジェクト

言語復興の港

ブースL：チワン語の継承と保存

国立国語研究所

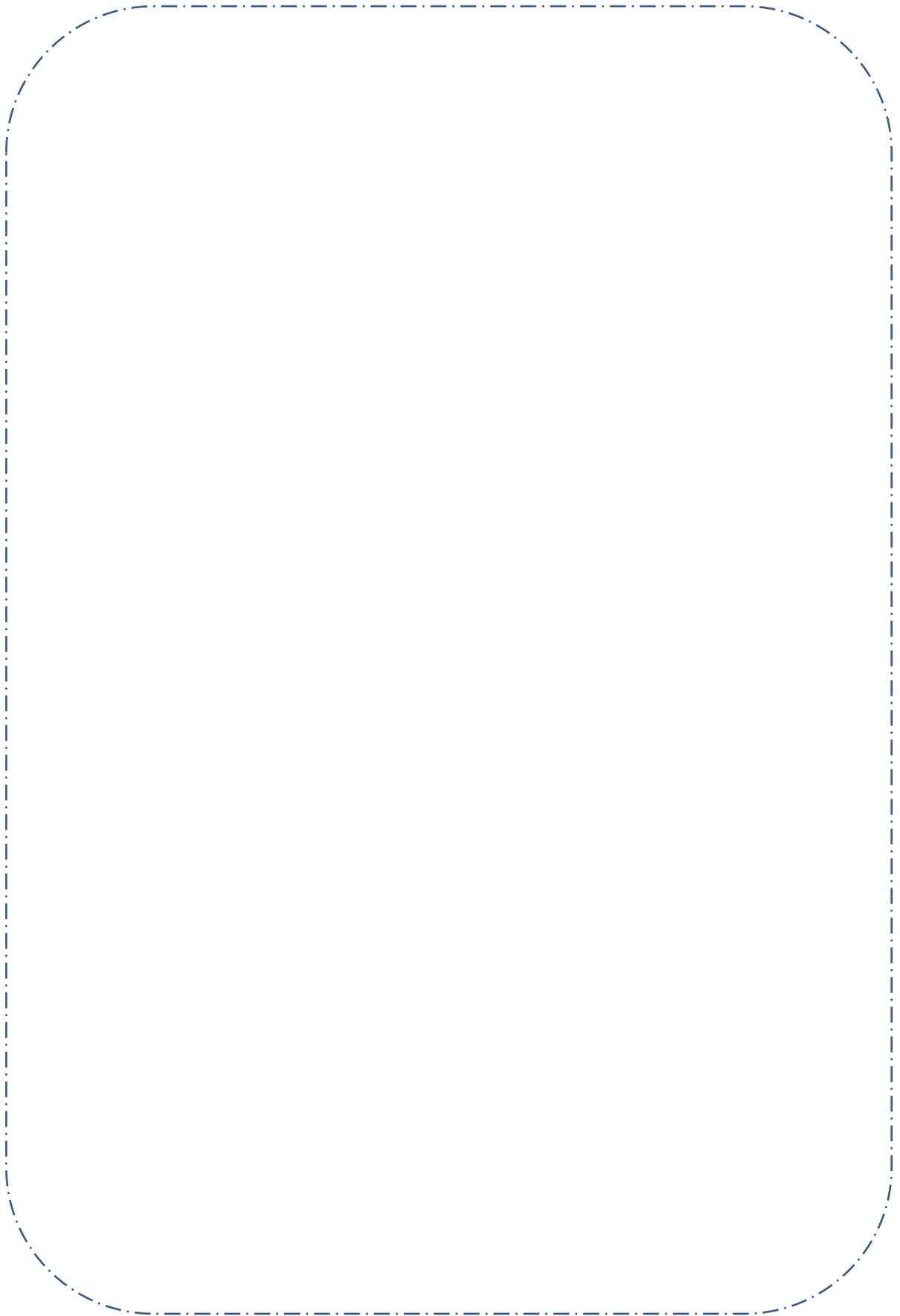
ブースM：台湾原住民の言語について

井口康弘

ブースN：カナダの先住民言語

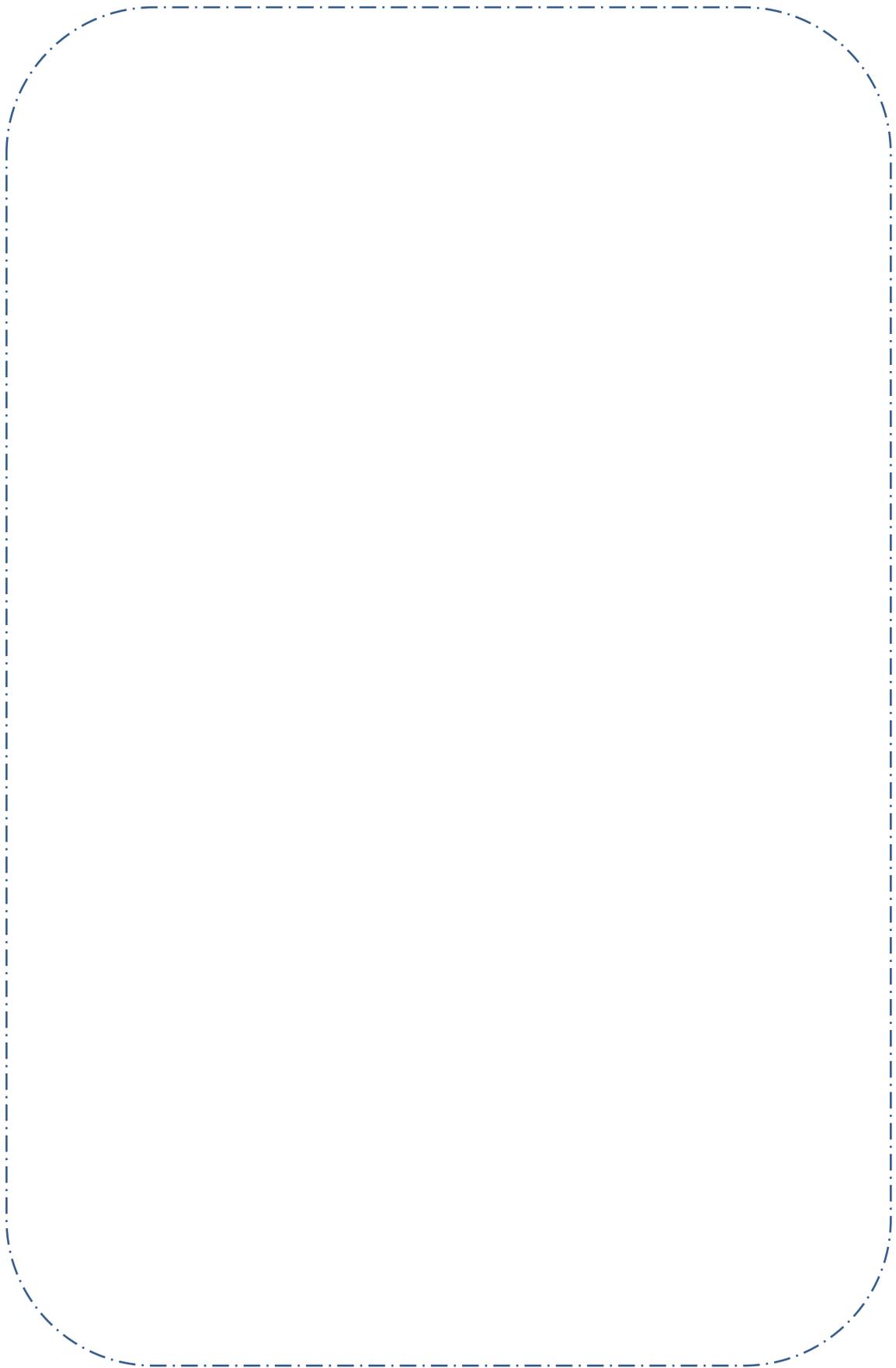
カナダ大使館

- *各ブースの位置は、会場にて御確認ください。
- *「相談室」において、紙芝居、読み聞かせ、手遊び歌などを実演します。
- *「研修室」は、休憩スペースです。



1日目

情報交換のための 研究協議会







2日目

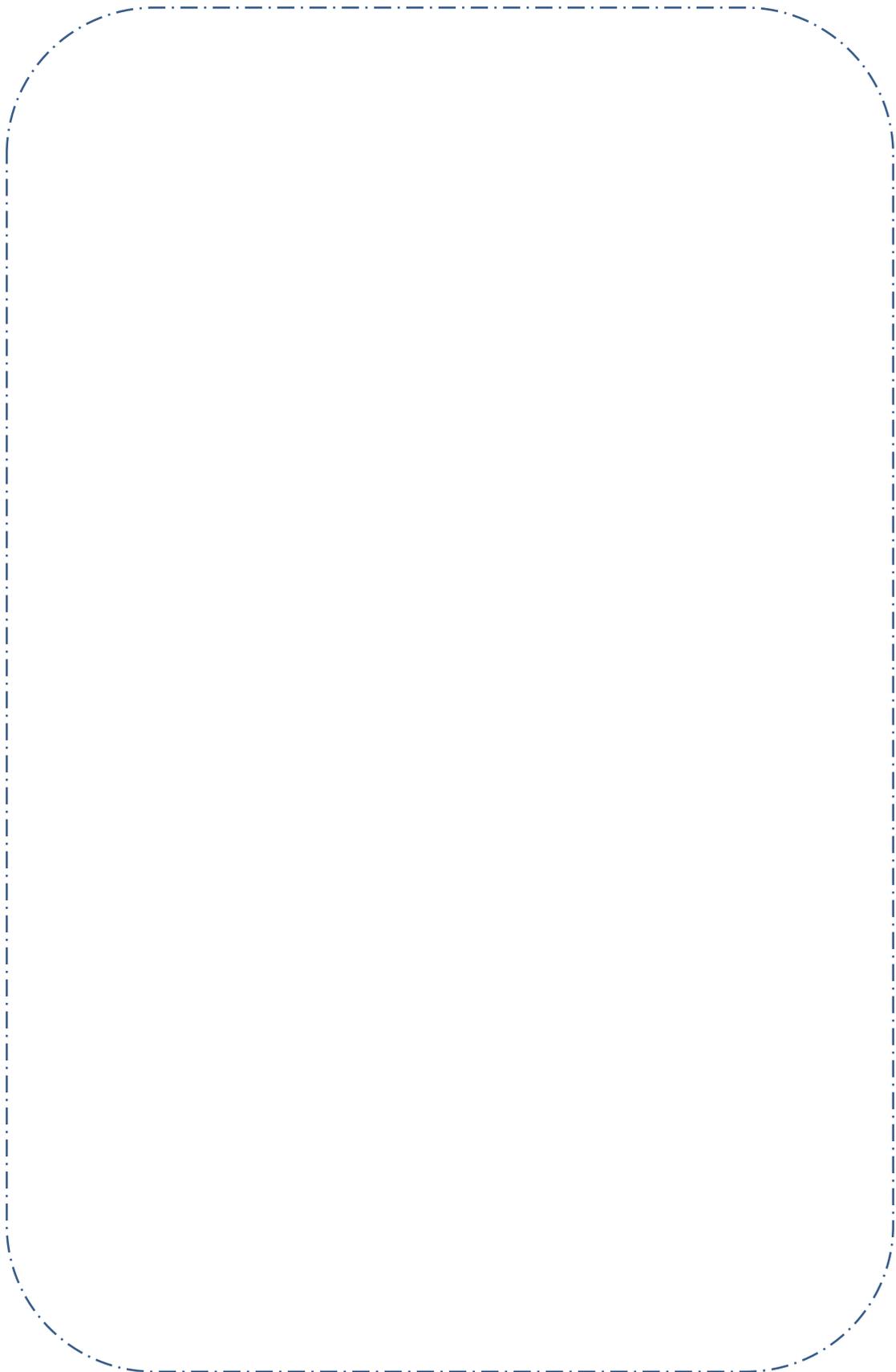
危機方言の現況報告

駒澤大学

三樹 陽介

八丈町教育委員会

林 薫



危機方言の現状報告

—日本全体の状況—

三樹陽介（駒澤大学）

1. 消滅危機言語と日本の方言

UNESCO（国際連合教育科学文化機関）が2009年に発表した“Atlas of the World’s Languages in Danger”（第3版）¹には、およそ2,500言語が消滅危機言語として登録されています。そのうち、日本国内にあるものは8つですが、アイヌ語を除くと、ほかの7つの言語は国内では一般的には日本語の方言として扱われてきたものでした。UNESCOはなぜこの7つの方言を選んで消滅危機言語として指定したのでしょうか。あるいは、言い方を変えると、どうしてほかの数多ある方言は消滅危機言語に選ばれなかったのでしょうか。

言語と方言との境界は明瞭なものではなく、どの程度の違いがあれば別の言語・方言といえるのか、言語学的に明確な線引きをすることは困難です。ただ、ひとつの基準として、「2つの言語体系がお互いに（おおよそ）理解可能であれば、それらは同一言語の方言と見なされる」（D.クリスタル（著）、斎藤兆史・三谷裕美（訳）2004『消滅する言語』中央公論社）という考え方があります。日本国内には数多くの方言がありますが、それらは少しずつ異なる言語体系を持ち、グラデーション上に分布しており、日本語標準語と類似した方言もあります。こうした国内の方言事情は、国際的にみて世界の研究者の中で広く認知されているとは言えません。一方、日本にある危機言語のうち、これまで方言とみなされてきた7つの言語は、日本語標準語との差異が比較的大きい言語体系をもつものであり、あるいは本土方言と分岐した時期が非常に古いものであると言えます。こうした国内の方言に関する情報をUNESCOがどこまで把握していたかはわかりませんが、目立った特徴を持ち、日本語標準語から切り離せるような方言をまず選んでリストに登録することで、言語の危機に対して社会に警鐘を鳴らすという喫緊の課題を乗り越えようとしたのではないのでしょうか。

2. 日本の方言のほとんどは消滅危機言語

消滅危機言語を判定する基準は、UNESCOによって公開されています。この予稿集にも記載がありますが、この判定基準に従うと、おそらく国内のほとんどの方言は多かれ少なかれ消滅危機言語の条件にあてはまります。その時、それが方言であるか、言語であるかは、私は問題ではないと考えています。一つひとつの方言にはそれぞれ固有の言語体系があり、それらの方言はその地域の文化やアイデンティティを担っているものであるからです。つまり日本は国内に大変多くの消滅危機方言を抱えているということになります。

¹ <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000187026>

ただ、消滅危機方言といっても、その状況は方言によって様々です。方言によっては、いわゆる共通語（あるいは標準語）と呼ばれる、一般に都市部で使われていることばと大きく違わない、ごく似通ったものも多く存在します。東京都心にも、共通語の基盤となったといわれる東京方言（山の手言葉）や、下町の方言などが存在します。しかし、これらは地域の都市化の拡大によって、静かにその存在を薄めつつあります。さらに、その周辺部には、多摩地域の方言や、埼玉、神奈川、千葉の方言などが分布していますが、そこに住んでいる人たちは、自分が話していることばが方言だという認識を持っていません。こうした東京周辺部の方言は共通語と似通っているがために、そこにアイデンティティを持たれることもなく、周辺地域との方言的対立を失いつつあるのです。ある言語が若い世代に受け継がれていない場合、その言語は消滅の危機に瀕しているというのが消滅危機言語の基本的な考え方ですが、目立った世代間の言語的断絶がみられなくても、徐々にその方言的特徴が失われていくという形で存続が危ぶまれる方言はたくさん存在するのです。

山梨県南巨摩郡早川町には奈良田という、かつては秘境と呼ばれていた集落があります。この集落で話されている奈良田方言は、その周辺地域や山梨県内の他の方言とは大きく異なる言語特徴を持っており、日本方言学史上、非常に重要な位置づけがなされてきました。一見、近畿風に聞こえることばの調子や古風な音韻体系、奈良時代に孝謙天皇が湯治に訪れたというような数々の伝説も相まって、多くの人々の興味を引いたのでしょう。特にアクセントを中心に、数多くの研究がなされてきました。しかし、その研究成果の質と量に反し、言語全体を記述・保存しようとする取り組みは最近までほとんどみられませんでした。今や話者はご高齢の方 10 数名のみであり、極めて深刻な状況にあります²。

奈良田に限らず、こうした方言は日本中にたくさんあることでしょう。しかし、消滅危機言語を抱える地域のように、行政や研究機関が積極的な活動をしている例はほとんどありません。それどころか、衰退・消滅は仕方のないことだとして、あまり気にも留められないことの方が多いのではないのでしょうか。これが日本の多くの方言の実状なのです。

3. 国内における消滅危機言語研究や保存・継承活動

UNESCO の消滅危機言語の記述・保存・継承活動は各地域でその任に当たる方々によって着々と進められています。近年の琉球諸語の研究成果は目覚ましいものがありますし、アイヌ語では学習者を育て、文化とともに継承していく活動が盛んだと聞いています。琉球諸語研究において海外の方法論の導入が試みられ、国際的に共有可能な形で方言を精緻に記述する方法が確立されていったことにより、それが国内の方言研究を牽引する形で本土方言にも波及し、研究成果が積み重ねられています。琉球諸語では記述文法書が続々と作成されており、大学院生が博士論文の課題として取り組む例もみられるようになりました。本土

² 奈良田方言は近年精力的に総合的記述研究が進められている（小西いずみ・三樹陽介・吉田雅子（2022）「山梨県早川町奈良田」『日本の消滅危機言語・方言の文法記述』国立国語研究所 等）。

でもこうした取り組みが進みつつあり、今後の拡大が見込まれます。

また、国立国語研究所や各大学の報告書、研究者の論文・書籍、用例の充実した辞書や文法書など、消滅危機言語の保存・継承に資する文献が数多く生み出されています。実践方言学³という、新たな視点からの研究分野も生まれました。日本全体を見渡すと、まだまだ十分ではない状況にあるとは言え、学術的には充実した状況を迎えています。

一方で、そうした学術資料が多く生産されることに比べ、研究者の手による一般向けの資料が少ない印象は否めません。研究成果を継承活動に応用し、地域社会に還元するためには、地元の方にとって使いやすくわかりやすい、前提知識のいらぬ一般向け資料が必要です。例えば沖永良部島では、方言の美しい絵本⁴や一般向け学習書⁵が作られています。こうしたものが各地でも作られていき、方言による文芸作品などが作られていくようになると、継承活動にも大きく資するものになるかと思えます。

方言研究の世界には、昔から在野でご活躍なさっている研究者の方がいらっしゃいます。そうした方々の方言資料を掘り起こすことも、情報を充実させるのに貢献するでしょう。現在でも、多くの地域において、話者や、自分自身は話せなくとも方言に関心があるという方が、方言を残そうと様々な工夫を重ねて活動しておられるケースはたくさんあります。しかし、時として、その成果物が方言の保存・継承にはあまり適していないこともあります。それではせっかくの献身的な努力が十分に活かせません。こうしたことが明らかになってきて、地元の話者による献身的な継承活動が行われている地域では、より専門的な知識やメソッドが求められるようになってきました。メソッドを広めることと、地域研究者との連携、橋渡しが必要です。現在、国立国語研究所や各地教育委員会がこうした役割を担っていますが、我々方言研究者は海外のメソッドなどを積極的に取り入れて応用し、啓蒙していく必要があります。

これまでも方言学では方言の体系的記述ということを行なってきましたが、衰退やあるいは消滅を考えた時、記述の網の目をもっとずっと細かくし、特に運用面に関しても配慮した記述をしていかなければなりません。また、どうしても特に珍しい事象の研究に集中する傾向がありましたが、珍しくない部分にも目を向けて記述していかなければなりません。

ことばとは別の例ですが、音楽家の方から、モーツァルトを演奏するのは難しいという話を聞いたことがあります。楽譜をみると、ブラームスやチャイコフスキー、マーラーといった後世の作曲家に比べるととても単純に書かれているのですが、そこには当時の演奏様式で常識とされていた表現方法は省略されて書かれておらず、それを補って演奏しなければならないから難しいのだということです。この例からわかるのは、ある時代に常識とさ

³ 小林隆（代表・編）（2020）『実践方言学講座1～3巻』くろしお出版

⁴ 田中美保子・山本史・松村雪枝・横山 晶子（2022）「塩一升の運（ましゅ いっしゅーぬ くれー）」ひつじ書房、等。

⁵ 横山晶子（2022）『0から学べる島むに読本 琉球沖永良部島のことば』ひつじ書房

れていたことであっても、数百年経ってしまうとわからなくなってしまう、ということです。文字は時空を超えて我々に情報を届けますが、音声やそれによって表されるその時代の価値観は、記録していかないとあっという間に廃れ、わからなくなってしまうのです。そうしたときに、ごく当たり前のことであっても、きちんと記述しておかなければ伝えることはおろか、そうした事実があったことさえ忘れ去られてしまうのです。

言語の保存・継承には、辞書、文法書、音声談話資料の「三点セット」が必要ですが、幸い現在では音声のみならず映像も残せるのですから、それらを記録としてたくさん残していくことでのちの世代に貢献できます。ただ音声や映像があるだけでは利用に資するのは難しいため、文字起こしした資料や解説、あるいはテキストの検索システム等を整備することで消滅危機言語の保存に備えます。

近年では、生成 AI を用いた言語継承に関する取り組みや、情報工学を用いた方言消滅のメカニズムの解明、といった研究が進められています。また、日本語教育を消滅危機言語の継承に応用する取り組みも研究されているようです。

4. 方言を残していくことに対する意識の差

ここ十数年の文化庁や国立国語研究所の取り組みや研究者の活動は、これまでの研究に新たなフェーズをもたらした充実したものだったと思います。特に消滅危機言語を抱える各地域や、東日本大震災の被災地では、サミットやイベントの開催等によって一般への周知、啓蒙効果という意味でも成果を残したのではないかと思います。しかし、一般社会の視点からみた場合、残念ながら、こうした方言の危機的状況に対する危機意識はまだまだ低調と言わざるを得ず、ことに私がフィールドワークを行なっている本土諸地域では、どうしてもそれを感じざるを得ません。方言を教えてください、と、その土地のお年寄りお願いすると、なぜいまさら方言を調査するのか、なぜわざわざ残そうとするのか、といった疑問が返ってくることは、今でも少なくありません。

また、方言を残していくことには好意的な意見がある一方で、その取り組みに行政がお金と人を投入していくことには懐疑的な声が聞かれます。むしろ、英語をはじめとする外国語教育に力を入れるべきではないのか、方言をなくして共通語一つにした方が効率的ではないのか、あるいは、これは自然淘汰なのではないのか、という声を聞くことも、しばしばあることです。グローバル化の中で失われていくローカル文化を堅持することよりも、その荒波の中でマイノリティがマジョリティに飲み込まれながらも、そこに合流して適応しようとする生存戦略なのかもしれません。方言を話せる話者の方であれば、方言にアイデンティティを感じ、できれば残したいという意識が働くかもしれませんが、理解できても話せない世代では、事情は異なってくるでしょう。方言は学ばないと話せないものだからです。

このように方言の保存・継承は、単純に経済性や採算性という点からは、確かに非効率で非実用的なものではあるのですが、しかし、問題は効率や採算性というところにあるわけではありません。言語の消滅をそこで論じてしまうと本質を見失ってしまいます。

5. なぜ言語を守らなければならないのか、言語とともに何が失われるのか

そもそも、言語・方言はなぜ守られなければならないのでしょうか。言語研究者の立場で回答するならば、一つでも多く方言が残ることで、日本語祖語や日本語全体のシステム解明のヒントになるかもしれない、ということが言語・方言を守ることの意義である、と答えます。ただこれは研究者の知的好奇心を根拠とした身勝手な意見かもしれません。

言語が失われる時、言語とともに何か失われていきます。それは一体何なのでしょう。言語が消滅するということは、結果的に、その言語によって形作られてきた儀式や祭り、社会的慣習、伝統芸能、文芸作品、詩や諺など、地域社会の無形の文化遺産が崩れ去り、博物館の中のものになってしまうことを意味します。しかし、失われるものはそれだけではありません。よく、「言語は、その地域の文化やアイデンティティを担うものであり、言語自体が失われると、そうしたものも失われてしまう」とか、「文化の多様性が失われる」といった説明がなされます。これは、その地域の言語には、自然や宇宙、人体に関する伝統的な知識や観念、精神的信念や宗教的概念、文化的価値観、といった世界の捉え方に関する情報が内包されており、それがその言語によって表現されていると解釈できます。つまりは、我々の頭の中にある思考の宇宙が言語に投影されているということであり、我々人類が何者であるのか、という人類最大の疑問を解決する重大なヒントが言語の中に凝縮されて保存されていることでもあると私は解釈しています。言語が失われる時、こうした一つの内的宇宙もまた失われるのです。

ところで、方言を観光や産業に応用して役立てたり、舞台芸術などに活用したりする取り組みが従来からなされています。このこと自体は素晴らしいことだと思いますし、方言に付加価値を与え、地域での存在感を増すことで保存・継承につながる、意義ある取り組みだと思います。ただし、言語の応用可能性を直ちに言語継承の意義へと結びつけてしまう考え方には注意が必要だと考えています。言語を保存・継承することの意味は何かに活用するためではなく（もちろんそのこと自体は必要であり、望ましいことですが）、あくまでもその言語自体が内包するものを次の世代へと受け継いでいくためであり、何か役に立てられないかと考えた時、途端に「役立つか否か」という価値判断が介入してくる危険性をはらんでいるのです。

「方言を勉強するくらいなら、英語でも勉強した方がよっぽど役に立つ」というのも、「役立つか否か」という価値判断からなされる意見です。役に立つか立たないか、という基準で判断するのであれば、それは確かに英語の方が実用的かもしれません。ただ、その基準で判断することが絶対的に良いと言えるのでしょうか。資本主義社会、競争社会ですから、この判断自体は妥当であり、今はこれで良いかもしれません。しかし数十年後、数百年後の世の中でも、この価値基準は通用するものなのでしょうか。今、この判断を押し進めてしまうと、十数年後にはなくなってしまう言語・方言もあるでしょう。その時はすでに手遅れなのです。人は何かを失ったときに、その大切さを痛感するものです。数十年後、数百年後に、その価値がわかった時に、あるいはその価値が社会に意味あるものとして注目されたときに、その

ことばがそこにあるかないかは、未来の人類にとって大きな違いなのです。

6. あとがき

まだ駆け出しの大学院生だった頃、山梨県北都留郡上野原市にある桐原という集落で方言調査を行ないました。その際、積極的に協力して下さった地元話者の方に「方言は食べますか？」と聞かれたことを思い出します。その方は非常に教養のある地域の名士で、私の祖母の教え子であり、また後に同僚となった方でした。方言を文化として捉え、記述していくことに意義があることを認識し、ご自身も地域文化を伝える研究会を主宰しておられました。しかし、そのような方でも、現実社会の中で方言を研究して生きていこうという私をみて不安に思い、方言を研究することで社会経済の中に身を置けるのか、ということを感じて下さったのだと思います。同時に、お前は方言を研究して社会に立派に貢献していく覚悟があるのか、と問われたようにも思いました。その時の私はまだ、胸を張って「方言は食べます！」とは言えませんでした。漠然と記述の重要性を感じながらも、自分の中でそれを昇華できていなかったのです。その方は数年後に鬼籍に入られましたが、私は結局、ご恩返しをすることができませんでした。時を経て、奇しくも今、私は「方言で食っている」ということになるのですが、果たしてそれに見合う働きができているか、この最初期の恩人に顔向けできるのか、苦しい思いでいます。願わくば、私が話者の方々と同じくらいの年齢になったとき、今よりも方言が広い世代で話されているよう、今ある目の前の課題に取り組んでいきたいと思っています。

[八丈町の取組状況]八丈町教育委員会 林 薫

八丈町教育委員会が平成21年(2009年)から令和6年(2024年)までに取り組んできた、「島ことば継承普及活動」についての報告。

<取組内容>

①学校教育関係の取り組み

- ・小中学校で行っている年3回授業とカリキュラム
- ・文化庁の事業での小学校での活動
- ・夏季の教職員への方言講座開講
- ・「今週の島ことば」などの掲示活動

②方言大会など生涯学習教育的な活動

③その他の活動

島ことば継承普及活動経過

●島外関係 ○島内関係 ※2009.02.20朝日新聞夕刊トップで報道(2/19ユネスコ消滅危機言語の発表)

年度	学校での演劇・授業等 文化庁・文相省	調査活動	製作物等	研修等 講演会・講座	イベント等 カルタ大会	老人会	劇団かぶつ 方言大会	取材・報道	
H21 (2009)	<p><文化庁>(言語活動。H21年度のみ) ○大賀郷小学校学芸会 SET(学校申請) ※SET:スーパバー・エキセントリック・シアター ※テラス:中野ケアセンター</p>	<p>○小・中・高校生 語彙調査</p>	<p>○島ことば100作 成</p>	<p>○講師—金田章宏「方言で語る」 2009.11.28 85名参加</p>			<p>○「大きなカブ」小学校全校(他に保育園) ○みつもり劇団公演 ・榎立庁祭11/23</p>	<p>H21 (2009) ○南海タイムス</p>	
H22 (2010)	<p><文科省>(コミュニケーション能力向上。H24年度を除く~H22から26年度) ○三原中学校2年生:歌づくり(5月:石野田奈津代(学校申請)) ○三根小学校6年生:学芸会(11月~1月:テラス(学校申請)) ○末吉小学校学芸会(学校申請) ○末吉小学校学芸会(オーブニング):12月~1月:テラス(学校申請)</p>	<p>●東北大学(?)アンケート</p>	<p>○今週の島ことば No.1~19 学校等配布 ●三根地区方言カルタ 手作り → 正式印刷 ●熊雄さん民話 DVD(約200枚) ●紙芝居:桃太郎・手作り(川上)</p>	<p>○講師—金田章宏「奥山熊雄民話DVD」101名参加 6月13日 ○講師—金田章宏「5地区の方言対話」195名参加 9月4日</p>	<p>○図書館祭 (方言100)7月</p>		<p>○みつもり劇団公演・榎立庁祭11/23</p>	<p>H22 (2010) ○「おれとじいちゃんのことば」—NHK3月放映 ○朝日新聞(2回) ○ジバンダ</p>	
H23 (2011)	<p><文科省> ○大中1年:川柳と表現・10月川柳やすみりえ・11月表現テラス(NPO申請) ○末吉小学校4~6年生:表現10~11月(発表会11月)テラス(NPO申請) ○大賀郷小学校4年生:学芸会12月~2月 SET(学校申請) ○末吉小学校3年生:学芸会 2月「島版桃太郎」SET(学校申請)</p>		<p>○今週の島ことば No.20~58 小学校、関係団体・施設に配布 ○三根地区方言カルタ・小学生全員配布、一般販売 ○シヨク節百句手作り作成 ○紙芝居「桃太郎」大判(A3)サイズ作成</p>	<p>○講師—与論島・菊秀史と島の5人が語る、かるた紹介 151名参加 10.29 ○講師—国立国語研究所・木部、千葉大・金田、島の人 3月18日105名</p>	<p>○カルタ大会1月28日 競技73名、ギヤラリー等で100以上</p>		<p>○むつみ第2保育園方言劇 ○末吉庁祭 方言劇 ○観光協会ツィッタ一掲載 ○「ハニヤとカクシヤ」[全中学校と三根小での公演。他に、図書館祭、東京、保育園、老人会、地域の公演 ○みつもり劇団公演・榎立庁祭11/23</p>	<p>H23 (2011) ○川上清展、沖山恒子取材 ○「おじやりやれ運動会」—NHK 12月放映 ○NPO環境教育推進連合→You tube「方言ってなんだろう」 ○MXテレビ2/8放映 ○南海タイムス</p>	
H24 (2012)	<p><文科省> ○三原小5年生:学芸会 劇「桃次郎」12月~2月 SET(学校申請)</p>	<p>○小・中・高校生 語彙調査748人 ●国立国語研究所調査(9月) ●琉球大学調査(1月) ●方言シンポジウム3/20、沖縄県立博物館・美術館(ハナレー、茂手木)</p>	<p>○今週の島ことば No.59~98 成(700部)配布・販売 ○紙芝居:七夕様(川上手作り)</p>	<p>●9月国立国語研究所調査と報告講演会120名 ○島民向け方言教室6月20人 ○八丈方言文法講座千葉大学金田章宏(11月18名、3月10日・16名)</p>	<p>○カルタ大会1月20日、競技 50名、ギヤラリーで、方言カルタ、シヨク、マ節カルタ (青少年委3名含む)</p>			<p>○「ハニヤとカクシヤ」公演(三原小・空澄保育園) ○みつもり劇団公演・榎立庁祭11/23</p>	<p>H24 (2012) ONATHONAL GEOGRAPHIC ○東京新聞 ○中日新聞 ○朝日新聞</p>

島ことば継承普及活動経過

●島外関係 ○島内関係 ※2009.02.20朝日新聞夕刊トップで報道(2/19ユネスコ消滅危機言語の発表)

年度	学校での演劇・授業等 文化庁・文科省	調査活動	製作物等	研修等 講演会・講座	教員研修	イベント等 カルタ大会	老人会	劇団かぶつ	方言大会	取材・報道
H25 (2013)	<p><文科省>実施していない</p> <p>○三原小学校、三原中学校、三原小学校授業支援</p> <p>○八丈町教育研究指定校研究(三原中)2/25発表会・講演会(講師:金田章宏)</p> <p>○全小中学校各学年年間3時間方言学習実施</p>	<p>○国立国語研究所調査結果報告会・シンポジウム(第7回講座)11/9、八丈高校視聴覚ホール108名+教委</p> <p>○島民向け親子島ことば教室7月13・14日(延べ20人)、9月23日9人</p> <p>○方言サミット取り組み</p> <p>○難島島嶼市町村教育長会</p>	<p>○今週の島ことば No99~138</p> <p>○パンフレット「島ことばを話そう、伝えよう」作成</p>	<p>○国立国語研究所調査結果報告会・シンポジウム(第7回講座)11/9、八丈高校視聴覚ホール108名+教委</p> <p>○島民向け親子島ことば教室7月13・14日(延べ20人)、9月23日9人</p> <p>○方言サミット取り組み</p> <p>○難島島嶼市町村教育長会</p>	<p>○方言講座 2回(7・8月)</p>	<p>○カルタ大会1月13日 競技56名、キヤラリー40名、教委等6名、青少年委4名</p>	<p>○老人会 方言カルタ、シヨメ、節カルタ 11/14、2/14</p>	<p>○劇団かぶつ「ベニジャラとかがジャラ」公演(大小PTA・家庭支援センター)</p> <p>○劇団かぶつ「ふしぎなきのこ」公演(大小以外の小・中学校、南アルプス市)</p> <p>○みつもり劇団公演・榎立庁祭11/23</p>	<p>○読売新聞</p> <p>○南海タイムス</p>	H25 (2013)
H26 (2014)	<p><文科省>(コミュニケーション能力向上)</p> <p>○三原小2年生:学芸会劇「アウエオイハバ」12月~2月:SET(学校申請)</p>	<p>○町制施行60周年記念事業 日本の危機言語・方言サミット・イン八丈島開催:12月12日~14日(参加者12日115人、13日176人、14日132人、計423人)</p> <p>○八丈方言文法講座 千葉大学 金田章宏(3月15日24名)</p>	<p>○今週の島ことば No139~177</p> <p>○カルタ音声化データ作成</p>	<p>○「町制施行60周年記念事業 日本の危機言語・方言サミット・イン八丈島」開催:12月12日~14日(参加者12日115人、13日176人、14日132人、計423人)</p> <p>○八丈方言文法講座 千葉大学 金田章宏(3月15日24名)</p>	<p>○方言講座 2回(7・8月)</p>	<p>○カルタ大会 1月12日 競技55名、キヤラリー21名、青少年委3名、教委等6名</p>	<p>○老人会 方言カルタ 1/19・三</p>	<p>○劇団かぶつ・ミュージカル「おもたろう」の中に「ふしぎなきのこ」でコラボ</p> <p>○劇団かぶつ「その後の白雪姫」を保育園などで公演</p> <p>○みつもり劇団公演・榎立庁祭11/23</p>	<p>○NHKテレビ</p> <p>○NHKラジオ(茂手木出演)</p> <p>○読売新聞</p> <p>○沖縄タイムス</p> <p>○郵政新聞</p> <p>○七島新聞</p> <p>○南海タイムス</p>	H26 (2014)
H27 (2015)	<p><文科省>(コミュニケーション能力向上)</p> <p>○大賀郷小6年生:学芸会劇「ユタと不思議な仲間たち」12月~2月:SET(学校申請)</p>	<p>○危機方言サミット・沖縄9月</p> <p>○八丈方言文法講座 千葉大学 金田章宏(6月14日25名)</p> <p>○方言体験教室 3/21 参加者24人、島内講師3人、国研(三樹)、教委3人</p>	<p>○今週の島ことば No178~218</p> <p>○カルタ音声CD作成、配布、販売</p>	<p>○危機方言サミット・沖縄9月</p> <p>○八丈方言文法講座 千葉大学 金田章宏(6月14日25名)</p> <p>○方言体験教室 3/21 参加者24人、島内講師3人、国研(三樹)、教委3人</p>	<p>○方言講座 2回(7・8月)</p>	<p>○カルタ大会:1月11日 競技52名、キヤラリー35名、青少年委3名、教委等5名</p>	<p>○老人会 方言カルタ</p>	<p>○劇団かぶつ「お桑かいこ縁」(大中5/)</p> <p>○劇団かぶつ「お桑かいこ縁」仙台公演(6/5)</p> <p>○劇団かぶつ「ふしぎなきのこ」公演(於:八丈高校)</p> <p>○みつもり劇団公演・榎立庁祭11/23</p>	<p>H27 (2015)</p>	
H28 (2016)	<p><文科省>(コミュニケーション能力向上)</p> <p>○三原小6年生:学芸会劇「冒険者たち」12月~2月:SET(学校申請)</p>	<p>○危機方言サミット・与論島</p> <p>○八丈方言文法講座: 千葉大学 金田章宏</p> <p>第3回:6月13日 第4回:11月26日 第5回:1月29日 第6回:3月</p>	<p>○今週の島ことば No219~257</p>	<p>○危機方言サミット・与論島</p> <p>○八丈方言文法講座: 千葉大学 金田章宏</p> <p>第3回:6月13日 第4回:11月26日 第5回:1月29日 第6回:3月</p>	<p>○方言講座 夏・冬休業中・1回</p>	<p>○カルタ大会:1月9日 競技43名、キヤラリー22名、青少年委2名、教委等10名</p>	<p>○老人会 方言カルタ</p>	<p>○劇団かぶつ 「その後の白雪姫」 大小、保育園</p> <p>○みつもり劇団公演・榎立庁祭11/23</p>	<p>H28 (2016)</p>	

島ことば継承普及活動経過

●島外関係 ○島内関係 ※2009.02.20朝日新聞夕刊トップで報道(2/19)ユネスコ消滅危機言語の発表

年度	学校での演劇・授業等 文化庁・文科省	調査活動	製作物等	研修等 講演会・講座	イベント等 カルタ大会	老人会	劇団かぶつ	方言大会	取材・報道
H29 (2017)	<p><文科省>(コミュニケーション能力向上) ○三根小6年生・学芸会 劇「嵐の中の子どもたち」 12月～2月:SET(学校申請)</p>	<p>●千葉大・金田調査 ●国三樹調査。紙芝居「欠けシャラ1制作」</p>	<p>○今週の島ことば No258～298</p>	<p>●危機方言サミット・北海道大学 ○八丈方言文法講座 千葉大学金田章宏 第7回:5月20日 第8回:7月29日 第9回:10月7日 第10回:12月23日 第11回:2月6日・18日</p>	<p>○カルタ大会:1月8日 競技45名、ギャンリ一 25名、青少年委0名、 教養等10名</p>	<p>○老人会 方言カルタ外三根地 域。1月15日</p>	<p>○劇団かぶつ「うくいすの尻」八 高視聴覚ホール、大小、三原小 ○みつもり劇団公演・榎立行祭11 /23</p>	<p>H29 (2017)</p>	
H30 (2018)	<p><文科省>(コミュニケーション能力向上) ○大賀郷小6年生・学芸会劇「鷹 法を捨てたマ シリン」12月～2 月:SET(学校申請)</p>	<p>●千葉大・金田調査 ●国三樹調査</p>	<p>○今週の島ことば No299～339 ○メのつく言葉カード ド、身体言葉カード 作成 三樹・紙芝居「欠け じゃら」制作</p>	<p>●危機方言サミット・宮古島 ○八丈方言調査中間報告会 千葉大学金田章宏・51名出席</p>	<p>○カルタ大会 八丈島昔遊 び大会の一環 として:1月8 日 競技45 名、ギャンリ一 25名、青少年 委0名、教養 等10名、地域 依頼者7</p>	<p>○老人会 方言カル タ外三根地 域</p>	<p>○劇団かぶつ 三宅島公演 青ヶ島は次航 ○みつもり劇団 公演・榎立行祭 11/23 ○若草保育園 発表会 12/6</p>	<p>H30 (2018)</p>	
H31 R元 (2019)	<p><文科省>(コミュニケーション能力向上) ○三原小6年生・学芸会劇「ユタと 学芸会劇「ユタと 不思議な仲間た ち」12月～2月: SET(学校申請)</p>	<p>○小・中・高校生 語彙・意識調査 ●千葉大・金田調査 ●国三樹調査</p>	<p>○今週の島ことば No340～377</p>	<p>●危機方言サミット・奄美大島 ○八丈方言調査中間報告会 3 /15 金田章宏(コロナで中止) ○卒論テーマにする学生複数</p>	<p>○カルタ大会(八丈島 昔遊び大会の一環とし て):1/13 競技70名、 ギャンリ一55名、青少 年委0名、教養等9名、 地域依頼者9</p>	<p>○老人会 方言カル タ外三根地 域</p>	<p>○劇団かぶつ 青ヶ島公演</p>	<p>H31 R1 (2019)</p>	
R2 (2020)	<p><文化庁>(コミュニケーション能力向上事業) ○大賀郷小6年生・学芸会劇「夢 から醒めた夢」12 月～2月: SET(学校申請) コロナ禍のため、 1月31日実施予 定が2月28日に 延期して実施(観 客は保護者のみ)。</p>	<p>●津田塾大学・小 宮みな卒業研究 「危機言語を含め た日本の言語の 衰退と復興につ いて」 ●八丈出身の学 生1人が卒業研究 で取り上げた</p>	<p>○今週の島ことば No378～416 ○金田科研・当山 昌直「八丈語の動 植物語彙調査報告 (暫定)」作成 ○金田科研・八丈 民話方言DVD(5地 域各4話)作成 ○三樹作成紙芝居 「タコのムコ殿」作成</p>	<p>○夏季休業 中の方言講 座でコロナ で中止。駒 沢大学の三 樹さんの講 演を、11月 20の方言教 育推進委員 会の日に延 期して実 施。</p>	<p>○カルタ大会(八丈島 昔遊び大会の一環とし て):1/9を予定し取り 組んだが、結局コロナ で中止になる。</p>	<p>○第1回方 言大会の ため、老 人会に働 きかけ、実 行委員や 出演者の 出席ひかけ をしたが、 大会その もの中止 になる</p>	<p>○劇団かぶつ 三原小公演</p>	<p>R2 (2020)</p>	

島ことば継承普及活動経過

●島外関係 ○島内関係 ※2009.02.20朝日新聞夕刊トップで報道(2/19ユネスコ消滅危機言語の発表)

年度	学校での演劇・授業等	調査活動	製作物等	研修等	イベント等	老人会	劇団かぶつ	方言大会	取材・報道	
R3 (2021)	<p>○全小中学校全学年が年間3時間の方言学習を実施。カリキュラムの増刷・配布(5月)。</p> <p>○八丈方言推進委員会6/14、11/18、2/22。</p> <p>○研究授業:富士中・全学年7/12・13、大小1・2・6年12/13・14、富士中全校カルタ大会1/14、大小3年1/25・28、大小学芸会・6年方言劇(ユタと不思議な仲間たち)2/26、大中学習発表会(方言での司会や発表)3/5</p> <p>○八丈高校・八丈学(1年)5/27</p>	<p>●東京女子大・斎藤さん、卒業論に取り上げる</p>	<p>○今週の島ことば No417~456</p> <p>○紙芝居追加製作(次皿、七夕様、タコのムコ殿)8月</p>	<p>●危機方言サミット・気仙沼大会(1/29・30)は、テレワークで実施した。話者・川上の録音撮影11/2。八丈は、当日役者で4名が参加した。</p> <p>○国立国語研究所の木部暢子教授による、八丈方言の映像化(黄八丈:山下芙美子、島壽司:福田菜子、紙芝居・七夕様:川上絢子)のバネル展示(2/4~25)に關して、バネルスペースセッションやミニ講演会を、第11回八丈方言講演会として2月5日(土)に予定したが、コロナで延期になった。バネルは到着済み。</p>	<p>○夏季休業中の教員向け方言講座は、7月26日実施。</p>	<p>○成人式(1/5)に方言カルタを展示。</p> <p>○カルタ大会(八丈島昔遊び大会の一環として)1/8(土)に小中、高校生を対象に実施し、小学生が17人(当日参加3名)が参加(都の補助事業となり、商品が高額になった。一般の観客参加は38名。読み上げ等を三根婦人会に、6人頼む。</p>	<p>三根老人会 カルタ大会</p>	<p>○三原小、大賀郷中、三原中、賀島は、女護り島ものがたり。</p>	<p>○第1回方言大会(3/21予定)を企画した。昨年度の活動の業績も受けて実行委員会を確保し、第1回実行委員会を実施したが、コロナのために実施できなかった。</p>	R3 (2021)
R4 (2022)	<p>○全小中学校全学年が年間3時間の方言学習を実施。</p> <p>○八丈方言推進委員会5/11・12、6/7、11/18、2/7。</p> <p>○研究授業:富士中・全学年7/12・13、大小全学年各学期1回、富士中全校カルタ大会1月</p> <p>○八丈高校・八丈学(1年)1月</p> <p>○カリキュラム改訂作業</p>	<p>●津田塾大・小宮みなさん卒業論</p> <p>●フランドル・エイトンさん博士論文</p>	<p>○今週の島ことば No457~495</p>	<p>●危機方言サミット・沖永良部大会(1/28・29)は、テレワークで実施。八丈は、当日役者で2名が参加した。話者・川上で昨年録音のものを使用。</p> <p>○2/12開催の方言大会の時に、国立国語研究所の木部暢子教授による、八丈方言の映像化(黄八丈:山下芙美子、島壽司:福田菜子、紙芝居・七夕様:川上絢子)のバネル展示を実施。また、方言大会の中に木部先生による上映展示と説明を実施(国研から3人来島)。バネルは返却。</p>	<p>○夏季休業中の教員向け方言講座は、7月26日実施。</p>	<p>○成人式(1/5)に方言カルタを展示。</p> <p>○カルタ大会(八丈島昔遊び大会の一環として)1/9(月)に参加対象を例年通りとして実施。保宮園児(8)保育園4歳児(2)、小1(9)、小2(9)、小3(4)、小4(4)、小5(5)、小6(7)、中学生(2)、一般(4)の参加。読み上げは大賀郷。為朝風揚上げ、昔の遊び大会と同時間開催。</p>	<p>三根老人会 カルタ大会</p>	<p>○三原小12/22</p> <p>○大賀郷中1/22</p> <p>○三原中1/27に実施</p> <p>演目は、女護り島ものがたり。</p>	<p>○第1回方言大会(2/12)を延期したが、やっと実施できた。出演者は11(島外も含む)で、小学生から高齢者まで多様で、内容も多様で好評だった。実行委員会は12人で、12/6、1/19、2/9、3/7実施。長時間になるのではないかとという問題、表彰の在り方などが課題になった。</p>	R4 (2022)
R5 (2023)	<p>○全小中学校全学年が年間3時間の方言学習を実施。</p> <p>○八丈方言推進委員会6/12、11/13、2/6。</p> <p>○研究授業:富士中・全学年7/7・3・4、大小全学年各学期1回、富士中全校カルタ大会1月</p> <p>○カリキュラム改訂作業</p>		<p>○今週の島ことば No496~533</p>	<p>●危機方言サミット・与那国大会(10/14・15)は、久しぶりに現地へ実施。八丈からは、佐藤教育長、川上絢子、茂手木清、林薫が参加。</p>	<p>○夏季休業中の教員向け方言講座は、8月25日実施。</p>	<p>○成人式(1/5)に方言カルタを展示。</p> <p>○カルタ大会(八丈島昔遊び大会の一環として)1/8(月)に参加対象は例年通り。保宮園児(5)、小1(7)、小2(9)、小3(4)、小4(5)、小5(3)、小6(4)、中学生(2)、一般(5)の参加。読み上げは藤立。為朝風揚上げ(準備した為朝風揚いで中止)、昔の遊び大会と同時間開催。</p>		<p>○三原小、大賀郷中、富士中、賀島は、お祭回顧録。</p>	<p>○第2回方言大会実施(3/10)。出演者は11(島外も含む)で、小学生から高齢者まで多様で、内容も多様で好評だった。実行委員会は11人で、11/2、2/22、3/1実施。186人参加</p>	R5 (2023)

島ことば継承普及活動経過

●島外関係 ○島内関係 ※2009.02.20朝日新聞夕刊トップで報道(2/19ユネスコ消滅危機言語の発表)

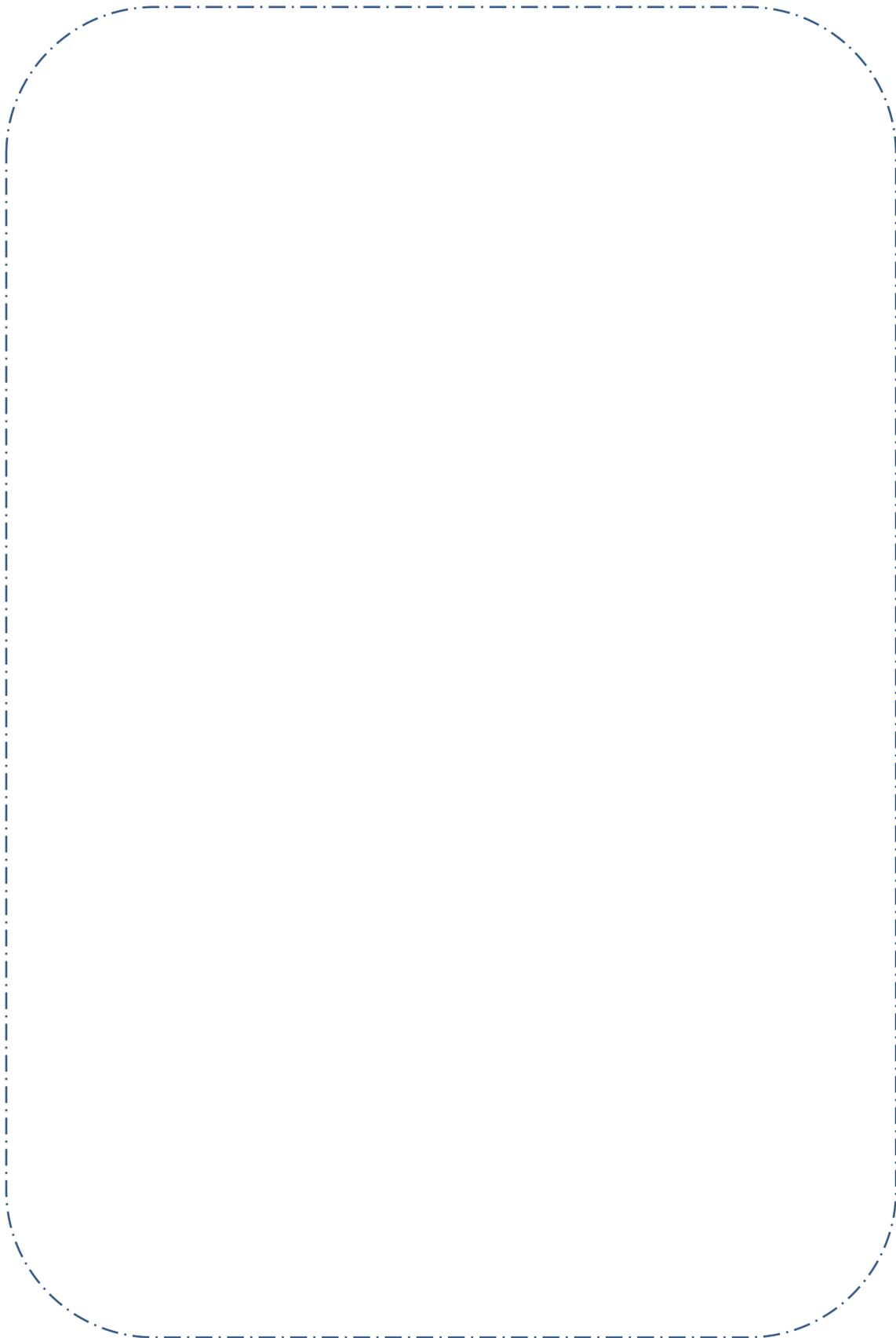
年度	学校での演劇・授業等		調査活動	製作物等	研修等		イベント等		取材・報道
	文化庁・文科省	学校研究授業等			講演会・講座	カルタ大会	老人会	劇団かぶつ	
R6 (2024)	<ul style="list-style-type: none"> <文化庁>(芸術家派遣事業) ○大賀郷小学校 	<ul style="list-style-type: none"> ○全小中学校全学年が年間3時間の方言学習実施。 ○八丈方言推進委員会 6/12、11/13、2/6。 ○研究授業:富士中・全学年7/1・2、大小全学年各学期1回、富士中全校力カルタ大会 ○カリキュラム改訂作業 	<ul style="list-style-type: none"> ○今週の島ことば No534~583 	<ul style="list-style-type: none"> ●危機方言サミット・八丈島大会 (12/7・8) 	<ul style="list-style-type: none"> ○夏季休業中の教員向け方言講座、7月26日実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○成人式(1/5)に方言カルタを展示。 ○カルタ大会(八丈島昔遊び大会の一環として)1/8(月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○第3回方言大会実施(12/8)方言サミットに組み込み 	<ul style="list-style-type: none"> 読売新聞関西版(7/3記事) 	<ul style="list-style-type: none"> ○第2回方言大会実施(3/10)

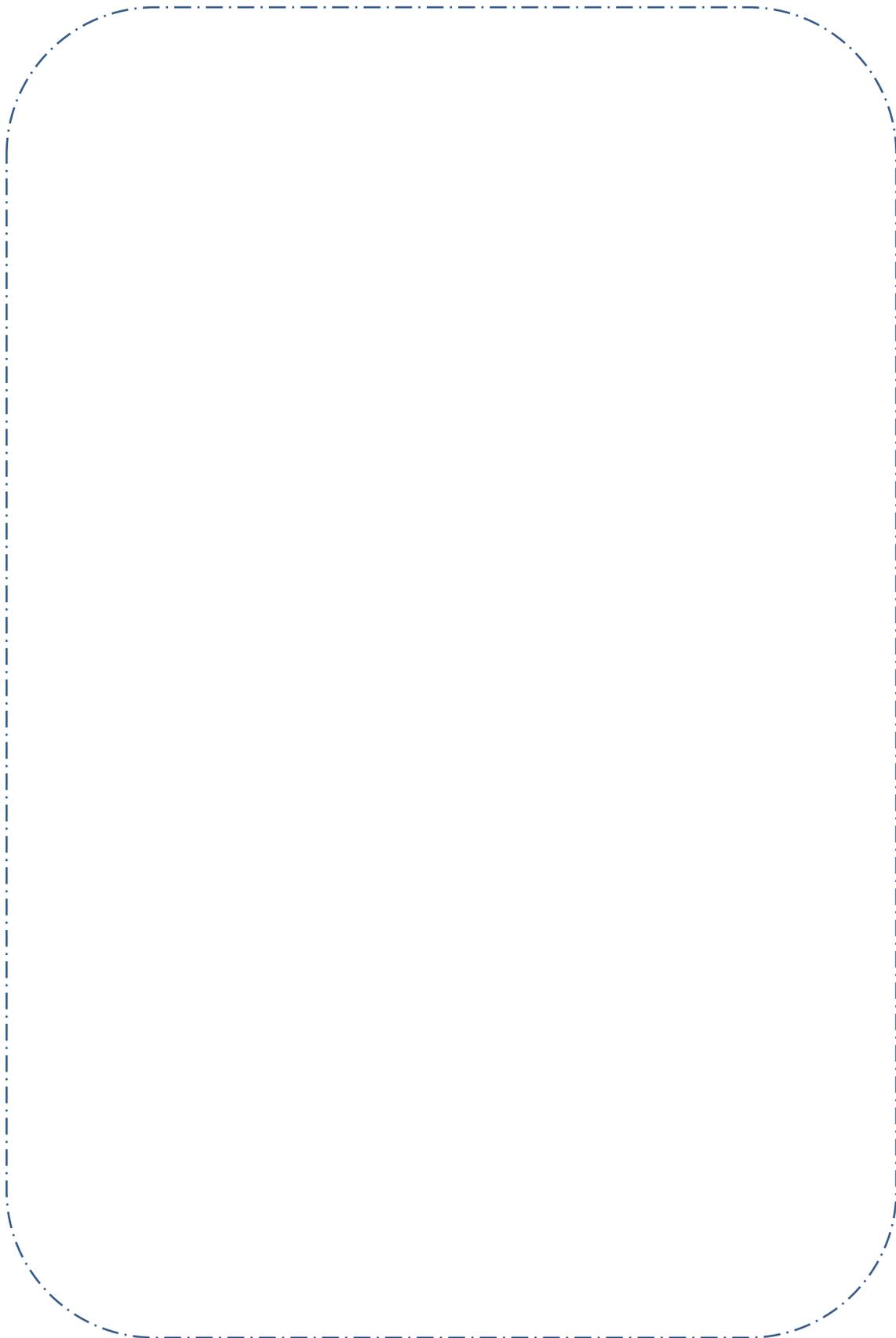
2日目

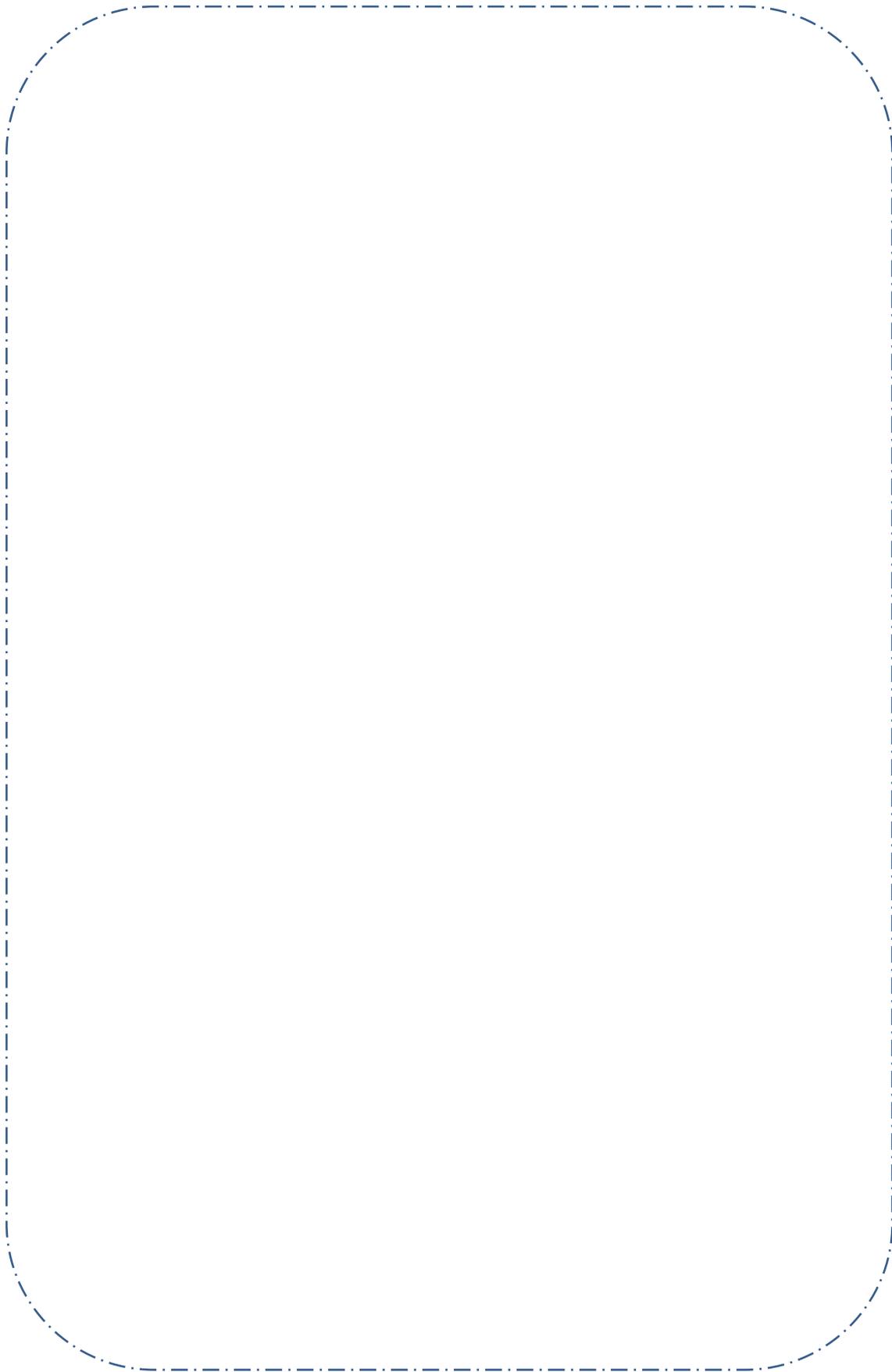
アイヌ語の現況報告

(昨年度収録動画)

北海道博物館 遠藤 志保







2日目

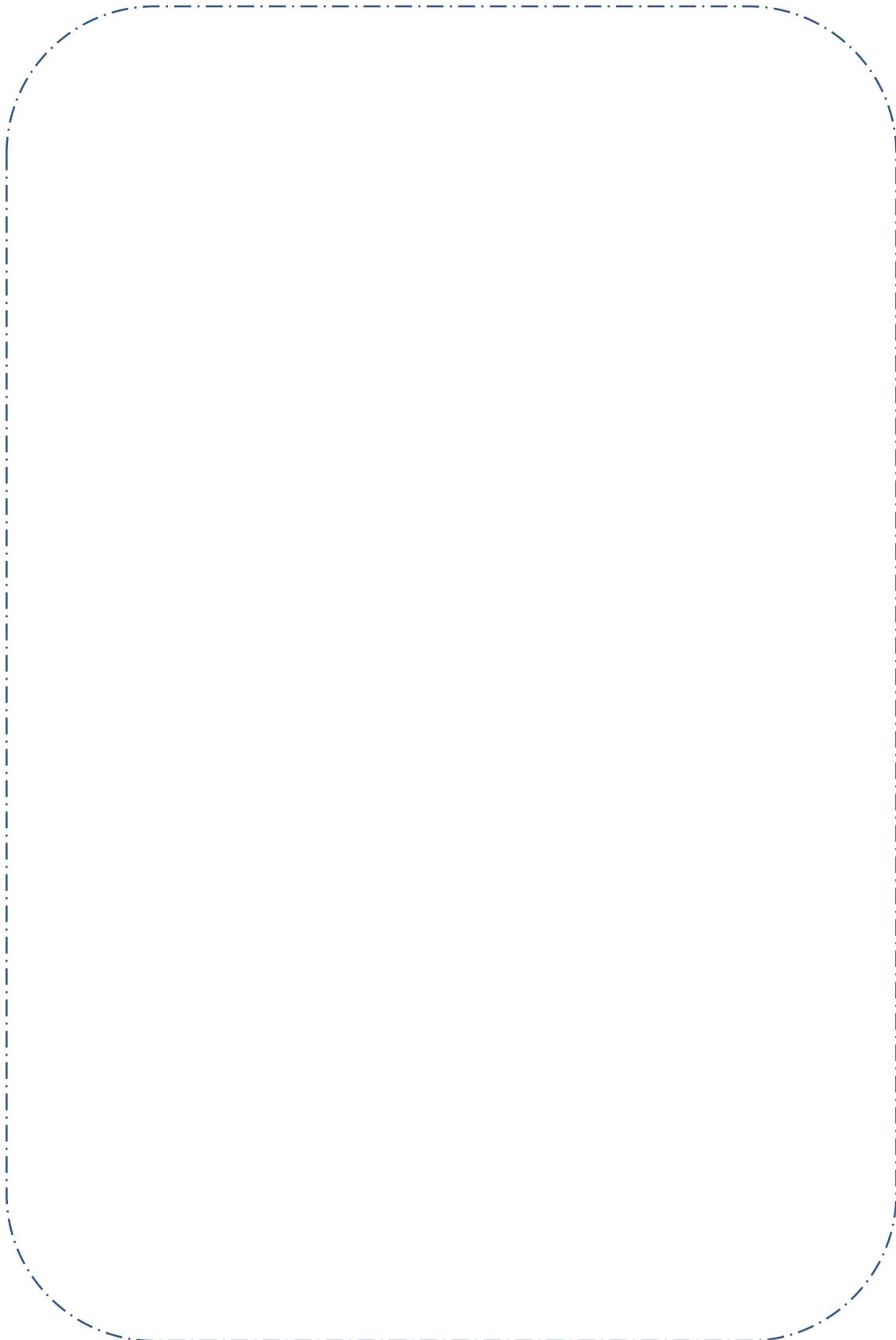
危機的な状況にある 言語・方言による 表現披露

豊川 容子

川上 将史

川上 朔來

川上 亜万夢



<披露予定>

(1)ユカラ【英雄叙事詩】 5分

●ポイヤウンペマチヒ アエイツカ

～ポイヤウンペの妻が^{かどわ}拐かされた～

(2)ユカラ【英雄叙事詩】 5分

●スマサムピューカ ～魔性の村～

(3)60 のゆりかご【子守唄】 7分

(4)サマイクルのイム【早口言葉】 2分

(5)メドレー【伝統歌】 5分

- バツタキリムセ
- サルキウシナイコタン
- フッタレチュイ
- クリムセ
- エムシリムセ

(6)ウパシランラン【創作歌】 4分

(7)アイヌ語クイズ【クイズ】 5分

(8)ミケミケ【創作歌】 5分

(9)ポロリムセ【輪おどり】 5分 …… 参加可能です。

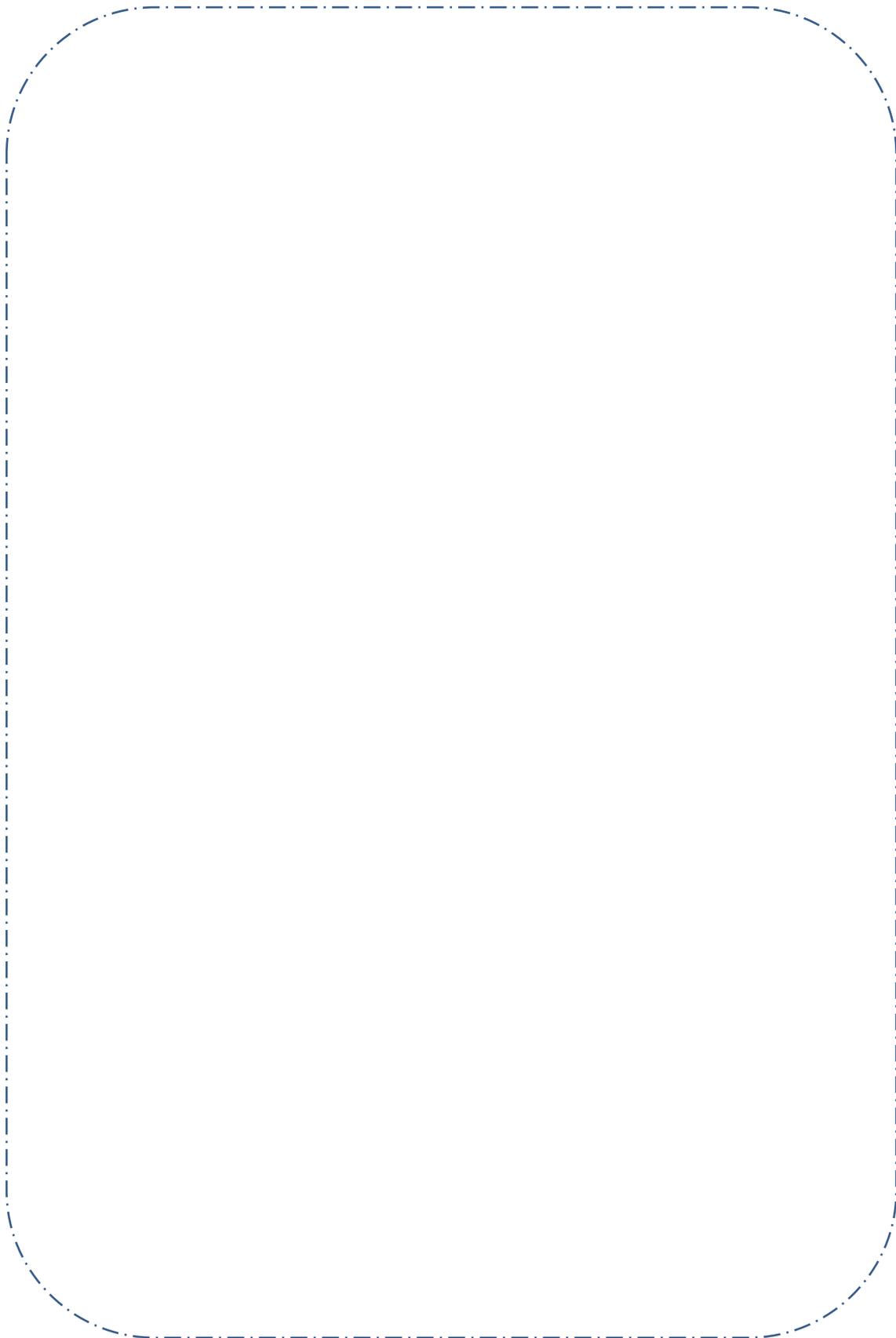
舞台上にどうぞ。

2日目

第3回八丈方言大会

進行：秋田みのり

渡邊 志保



[八丈方言大会とは]

八丈方言の継承活動の一環として、令和4年度より「八丈方言大会」を開催しています。

この大会は、失われつつある八丈方言(島ことば)に関することを、個人や団体を問わず、語ったり、歌ったり、発表したりして、八丈方言の楽しさや面白さを体感してもらい、親しみをもってもらうことを目的に開催しています。

<プログラム>

[あいさつ] 大澤 道明(八丈町教育委員会教育長)

1. 発表「お気に入りの島言葉かるた」 三根小学校児童有志
2. 方言歌「八丈島だよ、おっ母さん」 小宮山 絹代
3. 語り「赤かぶ物語」 菊池 睦男
4. 語り「あんだっち〜い2」 沖山 正俊
5. 漫才「THE MANZAI」 富士中劇団
6. 方言歌「芋畑」 持丸 のり子、玉置 定子
7. 会話「ばんまの日常会話」 川上 絢子、吉森、豊美

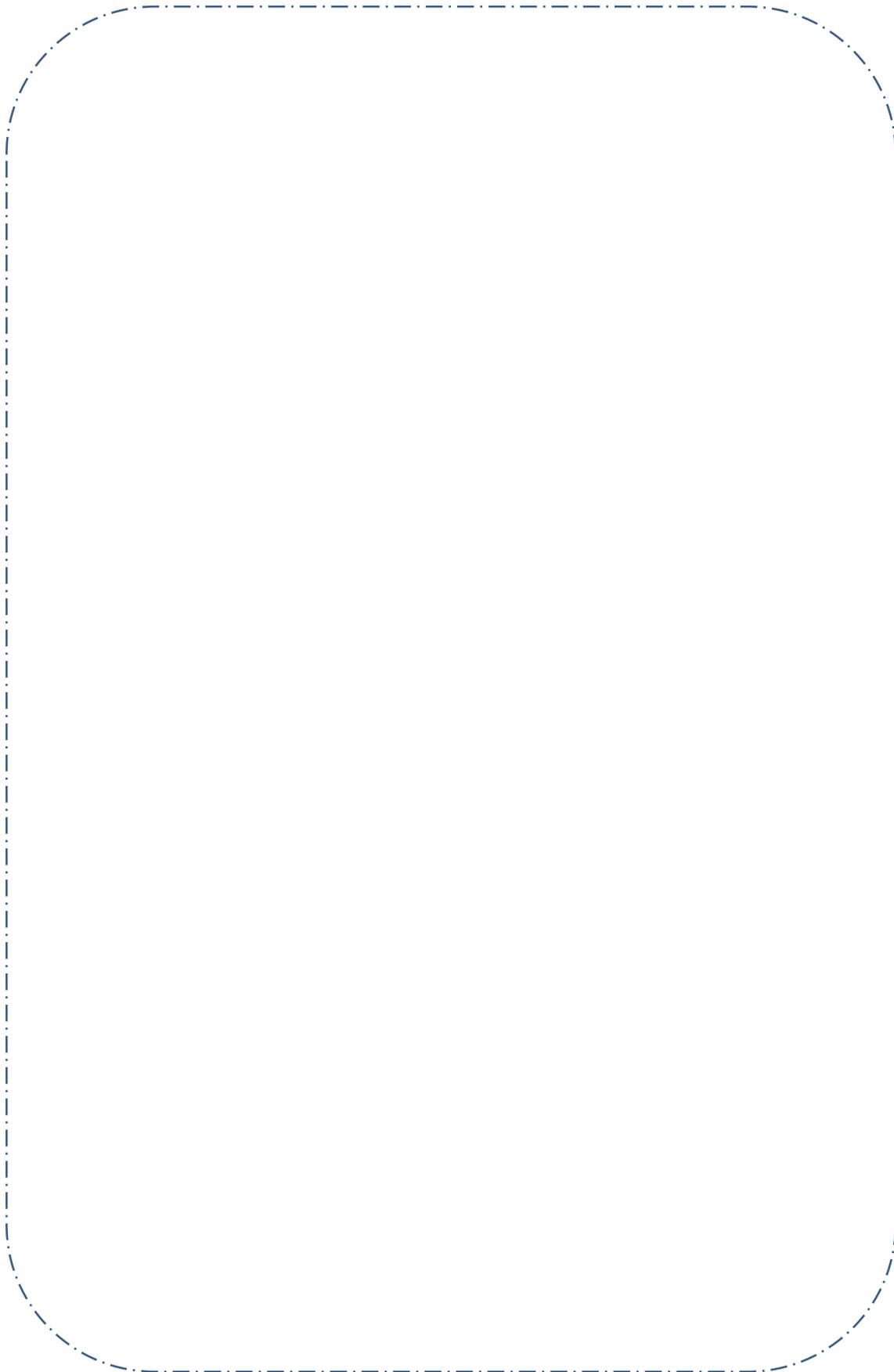
[表彰式]

[講評] 金田章宏(千葉大学名誉教授)

)

2日目

大会宣言



【「島に生まれて」とは】

同じ伊豆諸島の神津島出身のシンガーソングライター石野田奈津代さんが、平成 22 年(2010 年)に文部科学省の「子どものための優れた舞台芸術体験事業」の講師として八丈島へ来島し、三原中学校の生徒と一緒に作った曲で、当時の中学 2 年生の生徒の「八丈島への感謝」「八丈島を愛する思い」を、八丈方言を織り交ぜて歌詞に取り入れ、石野田さんが作曲を行いました。

「島に生まれて」はその後も歌い継がれ、三原学園(三原小学校・三原中学校)の学園歌として学校行事や島のイベントで今も歌われています。

[島に生まれて]八丈町立三原学園 学園歌

作曲:石野田奈津代 作詞:三原中学校2年生(当時)

[歌唱]三原学園関係者有志 + 石野田奈津代

1. 海と 山と 風の島 ここで ぼくらは 生まれた
やわらかな自然と 人が育ててくれた
おちこんでいる時 見上げた空
いつも だきしめてくれた 海
なんと見たって あきない 夕日
すべてがぼくたちの 大事な 宝ものだよ
げんきよ もらって どうもよい(元気を もらって ありがとう)
あしたも えがおに なれる
げんきよ もらって どうもよい(元気を もらって ありがとう)
この島が だいすきだよ
2. かわってく 季節のいろ かわらない 陽気な人
いつか 島をでたとき じまんするんだ
春は命が めぶく フリージア
夏は 夜を いろどる 天の川
秋は 心を そめる ゆうやけ
冬は なにもない でもやさしさが あふれている
島しゃん おじゃって たもうれ(島へ いらして ください)
えがおで ころろ つなごう
島しゃん おじゃって たもうれ(島へ いらして ください)
ぬくもりを つたえて ゆこう

3. あいがえの海 遊んだグラウンド

うらみがたき くるすのうからの けしき

伝えきれないほど きれいな ぼしょが あふれてる

げんきよ もらって どうもよい(元気を もらって ありがとう)

いつか おんがえしするよ

しましゃん おじゃって たもうれ(島へ いらして ください)

この島が だいすきだよ

やさしさに つつまれる 島

いつも いつも おもうんだ

島に生まれて よからら (島に生まれて よかった)

島に生まれて よからら (島に生まれて よかった)

※下線部分は八丈方言、()は共通語訳

◆大会宣言◆

[八丈方言]

あれんしゃあ 島じんは

宝ものである すばらしけ 八丈島の島ことぼあを

でえやあじにするじゃ

「島ことぼあ しゃべろ人」も

「島ことぼあ しゃべんなこ人」も

ひんまざって 守っていこがん

八丈島と あれんしゃあの 未来のがら

島ことぼあ つないでいこがんよい

[共通語]

わたしたち 八丈町民は

宝ものである すばらしい 八丈島の島ことぼを
大切にします

「島ことぼを話す人」も

「島ことぼを話せない人」も

お互い一緒になって 守っていきましょう

八丈島と わたしたちの 未来のために

島ことぼを つないでいきましょう

八丈町町制施行 70 周年記念

令和6年度

危機的な状況にある言語・方言サミット(八丈島大会)

資料集

令和6年12月

文化庁国語課

100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2

東京都教育庁

163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1

八丈町

100-1498 東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2

八丈町教育委員会

100-1498 東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2



町制施行 70 周年